

庁舎移転、混乱続く

市職労がボイコット

一方、市職労は二十五日夜、熊

天開館二小學校で開いた労働者
決起大会の決議文を市長、市議会
議長などに手渡し抗議をしたほ
か、一千六百名前後には高野河原に
も押しかけ抗議を行った。

新庁舎移転進まず

市当局・労組の対立続く

[illegible]

1980年（昭和55年）1月5日（土）

「三人」の釈放に最大限努力
市と市職労
確認書交わす
宜野湾市役所

【宜野湾】機動隊導入で市職労幹部三人が逮捕され、労使が対立。去る二十四日から始まった新庁舎への移転業務も進まず、四日から始まった新庁舎での業務は一部の窓口業務が行われている程度で、市業務は全般にマヒしている。四日から市職労も移転に協力、急ピッチに進められているが業務が正常に戻るには未定中かかるとなっていた。

市と市職労が三日に話し合いを持ち、今後、労使関係を正常化させ、民主的に進めていくという確認書が交わされ市職労も四日の移転業務から協力している。確認書は三人の釈放のため最大限努力する。また、三人の身分については市長の裁量権の範囲内で善処する。機動隊を導入、三人逮捕の最悪事態を引き市民に最大の迷惑を與はすことを作業。

市と市職労が三日に話し合いを持ち、今後、労使関係を正常化させ、民主的に進めていくという確認書が交わされ市職労も四日の移転業務から協力している。確認書は三人の釈放のため最大限努力する。また、三人の身分については市長の裁量権の範囲内で善処する。機動隊を導入、三人逮捕の最悪事態を引き市民に最大の迷惑を與はすことを作業。

市と市職労が三日に話し合いを持ち、今後、労使関係を正常化させ、民主的に進めていくという確認書が交わされ市職労も四日の移転業務から協力している。確認書は三人の釈放のため最大限努力する。また、三人の身分については市長の裁量権の範囲内で善処する。機動隊を導入、三人逮捕の最悪事態を引き市民に最大の迷惑を與はすことを作業。

1980年（昭和55年）2月27日（水）

教育センターの誘致など重要請

宜野湾市議より西銘知事に
 宜野湾市議会の青城邦彦、櫻庭舞鶴らは十六日、県庁に西銘知事を訪ね、①県立市部商業の市有地買い上げ問題の早期解決、②市への教育センターの誘致—などを要請した。

現在、中部道の校地は四万平方メートル、そのうち七平方メートルは市有地になっている。このため市側は県に土地の買い上げを求めているが、地価の暴落方法、市側が地価主義で当初、県側の値をつけ、これに対し県側は地価主義による四、五千円の暴落、両方ありあがりか、と問題化していた。同日、県議議員が「できるだけ市の暴落で買い上げてほしい」と要請したのに対し、西銘知事は「他に影響が及ぶので原則を貫きたい。新年度予算で八千万円増上してあるのでこれで対策をつけたい」と答えた。

また同市にある沖縄国際大、琉球大学と関連のある教員の研修などを目的とした教育センターの誘致の要請について西銘知事は「用地購入費の増しは計上されたが、誘致したい」と答えた。

国体の誘致に全力

【宜野湾】宜野湾市の三月定期議会（又、正月議会）が八日前、十時開会した。この日は宜野湾市議会の公有水面を県と市共同で埋め立てたい意向を明らかにし、これに対応するため、教育委員会に新たに保健体育課を設け、国体に向けての体制づくりをする。述べた。

一方、五十五年度の一般会費予算案は、百七億九千一百六十九千円で、前年度の当初予算より二億七千七百六十九千円増えている。歳入は市税十五億八千九百五十七万八千円、地方交付税二千四百四十四万三千円、国庫支出金三十八億八千六百一十一万

1980年（昭和55年）3月10日（月）

国体の誘致に全力

【宜野湾】宜野湾市の三月定期議会（又、正月議会）が八日前、十時開会した。この日は宜野湾市議会の公有水面を県と市共同で埋め立てたい意向を明らかにし、これに対応するため、教育委員会に新たに保健体育課を設け、国体に向けての体制づくりをする。述べた。

一方、五十五年度の一般会費予算案は、百七億九千一百六十九千円で、前年度の当初予算より二億七千七百六十九千円増えている。歳入は市税十五億八千九百五十七万八千円、地方交付税二千四百四十四万三千円、国庫支出金三十八億八千六百一十一万

市長が議会で表明

宜野湾

市有地買い上げ問題の早期解決、②市への教育センターの誘致—などを要請した。

1980年（昭和55年）9月12日（金）

米軍住宅地域の一部を開放

普天間第2小移転用地



普天間第二小学校移転地に予定されている普天間ハウジングエリア。右道路は県道30号・普天間でいご通り

現地米軍、了承の意向

日米合同委で正式決定へ

宜野湾市

【宜野湾】米軍基地に隣接、激しい騒音に悩まされている普天間第二小の移転計画を進めている宜野湾市は、普天間ハウジングエリア（普天間を英語で）の一部を学校用地として開放してもらいたい、と那覇防衛施設局と協議していたが、このほど了承を得た。また、現地米軍も開放する意向を明らかにしている、といわれ、同様の移転計画は具体化してきた。

市の計画によると、移転先は騒音が、沿道路の騒音レベルが30分以内の普天間ハウジングエリア内、国道第30号の伊佐エリから約1.5キロ離れた場所にある。防衛施設局と米軍の開放名、新設、普天間の町名として、防衛施設局側はハウジングエリアの二小中学校から約1.5キロ離れた場所を希望したのに、市は地が

距離の面で難色を示したため、市「移転や、用地買収は1980年度に要するもの」とされている。これは、市の計画を日米合同委員会が解決し次第、学校の建設など具体的な作業に入るが、四年後の五十九年度には移転ができる見通しである。

市は、地主との交渉も本格的に開始し、十一日も行ったが、地主も大勢は学校用地なら、と理解をされているという。

**ブロンコ
墜落事故**

いつわが身に……

低空、毎日爆音づけ

[illegible]

事故現場まで
700
トメル

[illegible]

いて通車入ったのは午後四時過ぎ、
市役所主会館は午後二時五十分か
ろで、二時間もたったためとだつ
た。安次郎市長が上京中で、仲村
収入税が基地内に入り、米軍側か
ら事故の内容についてたじた。た
市では市長が帰任したい具体的
対応策を検討することにしてい
る。

抗議、対策立てる

抗議、対策立てる

沢庵安一野瀋市助役 新天間
海陸軍基地に飛行機が墜落したと
聞いてびっくりしている。取入役
を基地に派遣、事故の調査をさせ
ている。市長が国への要請のため、土京しているのが帰任したあ
と、抗議や対策を立てていきな
い。

起こるべき事故だ

島田善次基地及び爆音を退治

いた事故が起きた。起るもへへ

て越えたものであり、常に市民

となった。県、市や国が住民地

きた事故であり、糾弾していくな

ロケット弾を撃ち込んで飛

17

1997

1

1998

100

1998

1998

1998

9

住民地域からわずか700に離れた滑走路横に墜落したブロンコ＝矢印＝(宜野湾市宇宜野湾から撮影)

1980年（昭和55年）10月3日（金）

相次いで抗議行動

ブロンコ
墜落事故

「基地撤去しかない」

安次富市長
急ぎよ帰任
事故原因など究明へ

【宜野湾】普天間飛行場の航空機墜落事故は、宜野湾市民に大きなショックを与え、議会、市民サイドの抗議行動が三日前に行われた。市は事故原因の詳しい連絡はしていないが、「民間施設だったら大騒ぎになるだろう」と重視。米軍や防衛施設中にも交通で正な抗議を行ったが、議員、基地公署を追求する市民の会、教職員組合、市職労も抗議行動を行った。

県、安全対策申し入れ

民主団体、施設局へ抗議

市は、昨日の事故後、仲村取入役が基地内を訪ねたが、事故の調査であつたとして、司令に会った。事故の内容はキヤノンがなかった。このため三日午前十時半過ぎ、防衛施設、仲村取入役、多和田企画調整部長が基地を訪ね、口頭で「民間施設で起きた天候による事故である」として、基地の管理運営に問題があると思う、市に知しなう説明しないのは問題があり強い怒りを感じた。今後「悪く事故を起してはならない」と抗議した。

安次富市長は広域問題がでる三日に束、七日まで滞在する予定だが、三日午後四時、この

「う」と述べた。同僚道によると、死んだのは、朝日、パトリック、E・フォックス重機、自衛隊の兵、パトリック、E・ヒル大尉、O・V10機は、第一海軍航空隊第三六海軍航空隊本部中隊戦闘機分遣隊に所属しているが、第三六海軍航空隊は、今日、五時時間無事故で、不時着やヘリ等からの物体落下は事故とみなしていない。

普天間飛行場での戦闘機O・V10の墜落事故は、三日、北中城村早野、事故の詳しい様子には依然として、はつきりしない。

六月の軍用機でのドロー、オパール炎上事故、七月の嘉手納飛行場でのF15訓練失敗事故、八月の那覇空港でのF15オパール事故、そして今日の普天間飛行場での事故、軍用機事故が相次いでいるが、果は有効な対策を見い出せず、苦慮している。三日は、国務院が普天間飛行場、兵隊基地司令部訓練部長のデ、イフ、中佐を訪ね、安全対策の強化を申し入れたが、事故原因「調査にはかなり時間がかかり

調査時間かかる

海兵隊報道部長兼、任神米海兵隊報道部長は三日、O・V10ブロンコの墜落事故について「調査にはかなり時間がかかり

1980年（昭和55年）11月21日（金）

南伸道路 きょうから杭打ち

南伸道路は二十一日午前十時から南風原町新川を起点に杭打ちが始まるがルートになっている沖縄、宜野湾の両市は北中城村、西原町でも関係地主や地域住民の根強い反対があり、成り行きが注目される。これまで反対している地域で、道路公団の説明会を開いたことがあるがほとんどが「形式的な説明で地元の見解を聞いていない」と受けとめている。宜野湾市長田では説明会を受け入れたらなしに押しつけられると強い不信感を持っているほど。こうした県公団のやり方に賛同する市長、安次富宜野湾市長も「県民サイドの交通事情を考えた場合、結論では賛成だが、現状のような地元コンセンサスを得ないまま押し切る場合は反対する」と述べており、南伸道路の建設をめぐって反対を表明している地域がどのような出方をするか、成り行きが注目される。

現ルート認めぬ 宜野湾市 市長 我如古

安次富 市長
ゴリ押しには反対

【宜野湾】南伸道路の建設計画による地域のメリスツはない。関係地主は家や土地を失うに強く反対している。現状のままであれば認めない。反対している地域とともに県、公団に対して反対の理由を説明、見切り発車は許さないようにしたい」と述べた。

知事公室は「南伸建設によるメリスツはなく、騒音など公害の不利を防ぎたい」という。

市は、去る十四日、南伸ルート建設に反対している一帯の地権者を集め、地元の意向を聞いた。席上、長田の知事公室、我如古の石原会長らは「南伸道路の建設に

1981年（昭和56年）3月4日（水）

宜野湾市 定例市議会が開会

56年度
予算など
二十六議案を提案

【宜野湾】宜野湾市議会（又西正弘議長）の定例会議が三日午前十時から十日までの日程で開会した。同議会には五十六年度の一般会計予算案はじめ二十六議案が提案されている。同市は今年七月に市長選挙をひかえ、安次富市長の任期満了後の三月議会となり、一般会計予算を中心と論議が交わられるものとされている。

一般会計予算案は百十二億五千五百円で、前年より約四割の伸びとなっている。予算案のなかには安次富市長が就任後述べてきた国道55号と国道50号を結ぶ基地内のトンネル建設の調査費、市民会館の具体的な基本予算なども組まれている。またキャンプ・マシーナ跡の真奈重地区土地区画整理事業費、野間地区土地区画整理事業費なども含まれている。

今議会には去る一月の報酬委員会（馬場金）金選から各甲があった特別養育市議などの報酬について市三役の引き上げは見送ら

れ、市議は歳費が二十五万円から二十五万円に、副議長が二十万円から二十万円に、一般議員が十八万円から二十万円に引き上げられる。市長が一時開会を待たずして市役所を部長クラスが一万円から三万円へ、課長クラスが一万五千円を二

にあつては財政の健全化をはかり特に経費削減の徹底と合理化につとめる」と強調。また基盤問題では「事故発生に対する市民の不安とあらゆる基盤整備は市民生活に多大な影響を与えている。この現状を認識し、防災関係施設並びにキャンプ・スワン基盤の整理願を要求し、地盤に不安がえないうちに整備計画を策定する」と述べた。

1981年（昭和56年）10月2日（金）

県議一人増は当然

宜野湾市議会
決議文を携え要請

【宜野湾】県議区条例改正問題の議論が現在の大から大に増やすよう求めている。宜野湾市議会の正副議長ら各派代表は一日午前、県庁で県議を訪問し、決議の趣旨が実現するよう訴えた。これに對し、県の新組織部長は「選挙区条例改正は県議会検討中であり、いまだどうも、県がどういうことはできない」と答えた。また、大田県議会議長は「各選挙区の議員数は公選法で人口比例して定めなければならぬ」と述べている。宜野湾市は、五十五年度で人口が六万五千四百九十九人となり、一人あたりの人口は一万二千七百七十四人で、二選挙区中一が、国議区からすれば、宜野湾市議会が抱擁するうちに、宜野湾市を一人増員し、那覇市

区を二人減らす。そして那覇市の一一人増というのが公選法の原則に合致している。従って、同陣営によって自民党がのよるな態度を打ち出すか目されるが、又吉議長は「自民党議員連の古村幹事長は「市議会の全二議決案を賛成し、その全二議決案を賛成した。

組合費の給料天引きやらぬ

宜野湾市議会

与党が強行採決

【野党】開会中、特選市議は、開会を前に、市議職員の給は、開る案例の決は、現給の五割、見ても、改正をめぐって深夜まで、新選十八人によって、決した。労働組合が労働者を、延ばをかうして決定、新選、何か「一件はどうする」分、野党議の激しい抵抗に、六日午前七時、と、激しい追及があった。結局、

与党が強行採決の賛成多数で押し切った。

これはチェックオフ制の一部
廃止で、これまで市が組合の出
金など原料から差し引いていた
作業を今後はやらないという町
の、職員共済会出金、県市町
村職員互助会の掛金並びに貸付
金の返済金及びその利息、前々
年に準ずる会費、積立金、借入
返済金、貯蓄金及び物品購入代
金が対象となっている。

この動きに対し、市職労は五日、引き続き今日も、隣接市町村職労の応援を得て最大動員。「給がらの除除は、労働基準法第四十二条に定められていて、労組間の問題で決して決定する」とは問題の本質を超越したものであり、民主的なルールに基く。労働組合と市長との間に生じた協定事項に誠意が示さず、これは労組にとりて不利なことであり、不慮の事態発生をまねくことには、議事撤回を求めることに、徹底断固感を表明している。

1982年（昭和57年）3月15日（月）

核兵器撤廃を決議

【宮野道】「核軍縮市議会は十三日「核兵器の全面撤廃と軍備縮小の推進」に関する意見書」を決議、近江内閣総理大臣・外務大臣・文部科学大臣・内閣府大臣・防衛庁長官・宮内卿・宮城義典・知事・市長・市議員・市職員の署名を求め、意見書は要人。

意見書は、要人次の通り。

(1)が国は唯の核被爆国として非核三原則を堅持し、あらゆる形のあらゆる核兵器に反対し、その全面撤廃に全力を尽くし、あわせて非核兵器の軍備縮小についても積極的

に推進するとの本年六月に開催される第二回国連軍縮特別総会に対し、積極的に取り組み、特に包括的核実験禁止条約の締結、核兵器国の拡散防止、非核地帯の設置、核兵

をめぐり、國際連帯の反機兵器世論の喚起に努力すること(4)特に第二次大戦の悲惨な直接的体験を持つ沖縄県民は、この核兵器撤廃を強く訴へる。

1982年（昭和57年）6月23日（水）

反対多数で否決

選挙ポスター条例

【官野論】官野両市連ボス
ター揭示施設条例の制定につ
いて審議していた同僚議員は
つぎ官野両市議会議員は、
「二十一日夜三時、官野両
市議会は反対し、賛成四
票で否決した。」

[illegible]

り、買収や供給に力がある」と

1982年（昭和57年）7月23日（金）

宜野湾市議会

市民に不安と衝撃

ヘリ墜落に抗議要請決議

【宜野湾】宜野湾市議会（又吉正弘議長）は、二十一日午前十時から臨時議を開き、二十一日宜野湾市で起きた米軍ヘリコプター墜落事故についての抗議要請決議をした。決議後、議院各派代表が那覇防衛施設局、在

米米國総領事、普天間海兵隊基地を訪れ要請決議書を手渡しした。

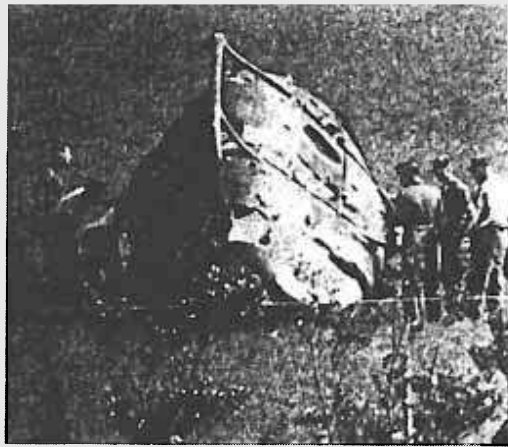
普天間海兵隊航空基地所属のヘリコプターが島内市内に墜落した事故を重視し、宜野湾市議会では、どのような対応を

するかについて、二十一日議会議決を決定した。

米軍ヘリコプター墜落事故に對する要請決議要旨は次の通り。

普天間海兵隊航空基地所属のヘリコプターが島内市に墜落したとほ、いつわられ市民の頭上を墜落するが計り知れない大きな危険要因をはらんでおり、市民に大きな不安と衝撃を与えた。しかも、同飛行場は本市の中心に位置し、その周辺が住宅地である。それにもかかわらずその上空を昼夜の別なく練習飛行を繰り返しており、その危険性は同様の事件でますます増大するものと推察され、まことに堪忍できない。われわれは、公民間の命と財産を守るため、今回のヘリコプター事故に對し、激しい憤りをもって、政府に抗議し、次のことを強く要請する。危険な軍事演習、米軍機の夜間飛行を即時中止する。この住民上空の軍用飛行は直ちにやめること。今回の事故の原因を究明し、真相を公表すること。被害者に完全な賠償をする。よ。

1982年（昭和57年）8月20日（金）



離陸時に墜落、大破したUH-1Hヒューイヘリ。普天間第2小から約300%しか離れていなかった

米軍ヘリまた墜落

普天間基地

学校から僅か300メートル

乗員三人は自力で脱出

【宜野湾】十五日午後、時分宜野湾普天間基地内、同基地のUH-1Hヒューイヘリが、離陸の際エンジントラブルを起し墜落。同基地内陸地帯に墜落した。乗員三人は自力で脱出した。乗員三人は自力で脱出した。乗員三人は自力で脱出した。

校（宜野湾）からわずか300メートルしか離れていないところまで、付近には民家が密集している。乗員三人は自力で脱出した。乗員三人は自力で脱出した。乗員三人は自力で脱出した。

市議会など 抗議行動へ

普天間基地は、同基地の北西側、上から普天間を見下ろす。普天間基地は、同基地の北西側、上から普天間を見下ろす。普天間基地は、同基地の北西側、上から普天間を見下ろす。

普天間基地は、同基地の北西側、上から普天間を見下ろす。普天間基地は、同基地の北西側、上から普天間を見下ろす。普天間基地は、同基地の北西側、上から普天間を見下ろす。

普天間基地は、同基地の北西側、上から普天間を見下ろす。普天間基地は、同基地の北西側、上から普天間を見下ろす。普天間基地は、同基地の北西側、上から普天間を見下ろす。

1982年（昭和57年）8月20日（金）

米軍ヘリ墜落

市民に衝撃 相次ぎ抗議

宜野湾市会が決議採択

【宜野湾】十九日午後一時五十分、宜野湾市普天間海兵航空基地内で起きた米軍ヘリ墜落事故で、市民は大きなショックを受けた。以後、米軍ヘリの離着陸訓練が繰り返され、騒音と危険が拡大されている。普天間基地の民間地域から一歩も引いてもらえないという市民の怒り、相次ぎ抗議行動が起きている。

【普天間】十九日午後一時五十分、普天間基地内で起きた米軍ヘリ墜落事故で、市民は大きなショックを受けた。以後、米軍ヘリの離着陸訓練が繰り返され、騒音と危険が拡大されている。普天間基地の民間地域から一歩も引いてもらえないという市民の怒り、相次ぎ抗議行動が起きている。

【普天間】十九日午後一時五十分、普天間基地内で起きた米軍ヘリ墜落事故で、市民は大きなショックを受けた。以後、米軍ヘリの離着陸訓練が繰り返され、騒音と危険が拡大されている。普天間基地の民間地域から一歩も引いてもらえないという市民の怒り、相次ぎ抗議行動が起きている。

【普天間】十九日午後一時五十分、普天間基地内で起きた米軍ヘリ墜落事故で、市民は大きなショックを受けた。以後、米軍ヘリの離着陸訓練が繰り返され、騒音と危険が拡大されている。普天間基地の民間地域から一歩も引いてもらえないという市民の怒り、相次ぎ抗議行動が起きている。

乗員3人が帰隊

【普天間】十九日午後、普天間基地内で起きた米軍ヘリ墜落事故で、乗員3人が帰隊した。事故発生後、乗員3人は救助された。事故発生後、乗員3人は救助された。事故発生後、乗員3人は救助された。

1982年（昭和57年）9月19日（日）

15町村で即日開票

33市町村
議員選挙よう投票

[illegible]

日即(十九日)開票
 大官名 東、伊江、高嶺改、
 葉國、海名、北中、南嶺、
 知念、玉城、佐敷、大里、南嶺、
 原、忠、出平、以、素、
 習百(二十日)開票
 國、今、歸、与、那、城、勝、連、
 勝、合、嶺、中、城、北、合、豐、
 城、竹、尾、与、那、國、上、野、城、
 伊、波、官、野、村、國、比、志、
 行、
 (開選13面)

(関連13面)

地縁、血縁頼つて

過熱する宜野湾市議選

[illegible]

【新報】官野新聞市街も十九日午前七時から午後六時まで、市内十丁の投擲場を投擲がなれて、有傷者は一萬九千八百二十四人、前回に比べて約半人増えるといふ。連日三十一日、四十八人を計傷。当選フイチは六千三百零六人、八百四十四の勢力が分派して、まづか

興味深い

公民館、普天間中学、旧市役所
庁舎、普天間第三小、大山公民
館、大謝名小、竊數小、我娑古
公民館、長田公民館、青嶺小。

1982年（昭和57年）9月21日（火）

宜野湾市

 松本 利雄 ④ 公明 現 宜野湾市立 大崎 三十四 五(4)	 高橋 孝夫 ④ 公明 現 高橋 孝夫 高橋 孝夫 三(2)	 杉山 重雄 ④ 無・新 合野 現 大崎 三十四 一(八)	 大崎 三十四 ④ 無・現 一(八)
 市川 三郎 ④ 無・現 市川 三郎 大崎 三十四 八(三)	 高橋 孝夫 ④ 無・新 高橋 孝夫 高橋 孝夫 一(一)	 上野 重雄 ④ 無・新 合野 現 大崎 三十四 一(一)	 大崎 三十四 ④ 無・現 一(八)
 伊藤 重雄 ④ 無・現 伊藤 重雄 大崎 三十四 六(二)	 高橋 孝夫 ④ 無・元 高橋 孝夫 高橋 孝夫 三(2)	 伊藤 重雄 ④ 無・新 合野 現 大崎 三十四 八(一)	 大崎 三十四 ④ 無・新 合野 現 大崎 三十四 四(四)
 伊藤 重雄 ④ 無・元 伊藤 重雄 大崎 三十四 一(二)	 高橋 孝夫 ④ 無・現 高橋 孝夫 高橋 孝夫 九(二)	 伊藤 重雄 ④ 無・元 伊藤 重雄 大崎 三十四 五(三)	 伊藤 重雄 ④ 無・新 合野 現 大崎 三十四 一(一)
 高橋 孝夫 ④ 無・新 高橋 孝夫 高橋 孝夫 一(一)	 高橋 孝夫 ④ 無・現 高橋 孝夫 高橋 孝夫 九(一)	 伊藤 重雄 ④ 無・元 伊藤 重雄 大崎 三十四 二(二)	 伊藤 重雄 ④ 無・現 合野 現 大崎 三十四 二(二)
 伊藤 重雄 ④ 無・現 伊藤 重雄 大崎 三十四 二(二)	 高橋 孝夫 ④ 無・新 高橋 孝夫 高橋 孝夫 一(一)	 伊藤 重雄 ④ 無・元 伊藤 重雄 大崎 三十四 二(二)	 伊藤 重雄 ④ 無・現 合野 現 大崎 三十四 二(二)
 伊藤 重雄 ④ 無・現 伊藤 重雄 大崎 三十四 二(二)	 高橋 孝夫 ④ 無・新 高橋 孝夫 高橋 孝夫 一(一)	 伊藤 重雄 ④ 無・元 伊藤 重雄 大崎 三十四 二(二)	 伊藤 重雄 ④ 無・現 合野 現 大崎 三十四 二(二)
 伊藤 重雄 ④ 無・現 伊藤 重雄 大崎 三十四 二(二)	 高橋 孝夫 ④ 無・新 高橋 孝夫 高橋 孝夫 一(一)	 伊藤 重雄 ④ 無・元 伊藤 重雄 大崎 三十四 二(二)	 伊藤 重雄 ④ 無・現 合野 現 大崎 三十四 二(二)
 伊藤 重雄 ④ 無・現 伊藤 重雄 大崎 三十四 二(二)	 高橋 孝夫 ④ 無・新 高橋 孝夫 高橋 孝夫 一(一)	 伊藤 重雄 ④ 無・元 伊藤 重雄 大崎 三十四 二(二)	 伊藤 重雄 ④ 無・現 合野 現 大崎 三十四 二(二)

1982年（昭和57年）9月21日（火）

明暗分けた あん分票

宜野湾市で“0.8票差”

【宜野湾】地下鉄選考と決
定の差は、票に満たない〇・
八五九票。統一地方選一斉開票
の二十日、宜野湾市では前同四
年前に続きまた小教員以下
で明暗を分けるという異例の決
着となった。

【宜野湾】地下鉄選考と決
定の差は、票に満たない〇・
八五九票。統一地方選一斉開票
の二十日、宜野湾市では前同四
年前に続きまた小教員以下
で明暗を分けるという異例の決
着となった。

あん分票。これが勝敗を決め
た。開票最終段階で六二二票対
六〇四票と五票の差があった武
豊行男さん（自由）と宮城
貞さん（自由）の自派。あん
分票の両陣に入ると、今選挙、
「宮城」四人、「ヨシオ」二人
が立候補している中で、宮城
さんへの票が一票、二票と増
え、ついに武豊さんを逆転。同
姓・同党がいなかった武豊さん
には一票も回らず、無念の涙と
なった。

劇的なところで、宮城
さん「もう少し取れると思った
が、いやはや敗しかった。支持
者のみなさんずっと心配してく
れて、ほんとにホッとし
た口調だった。

「フニングはこれだけではな
かった。開票終了の午後零時半
になって、投票総数より五十三
票多いことが判明。選挙は大
騒ぎ。全票を三度数直し、照
台をしたが、数はすべてビタ
リ。外部から持ち込まれるはず
はなく、ミスで入ってしまった。
その間、五、六議席をめぐる
争いは絶え、支持者らは選挙
の動きを待った。

選挙は、票の指導を仰ぐ、

1982年（昭和57年）9月23日（木）

保守化の 波強まる

【宜野湾】宜野湾市議会選挙
は定数三十二議席に四十八人が
立候補。激戦だった。これまで
の勢力分野は保守系、革新系
四だったが保守が、議席のはじ
めて九議席。革新は十一議席と
なり一段と保守色の強い勢力分
野となった。そのなかで目立っ
たのは新人二五議員の躍進。新
人十一人のうち十一人が選挙
正の四人全員が返り咲いた。議
席半数以下の十六議席に交代が
あり、現職の七人が落選した。
政党内では、公明二、共産二、
社会二、社大二、自民一となっ
ている。

1983年（昭和58年）2月27日（日）

ブラジルに宜野湾、市旗やビデオ贈る

【野湾】宜野湾市（安次）から贈ったブラジル州議院に、市旗やビデオを贈った。また、四市郷友会からはブラジルの国イッペーの種子が、宜野湾市に贈られた。

後、二十三年ぶりにブラジルから贈ったブラジル州議院に、市旗やビデオを贈った。また、四市郷友会からはブラジルの国イッペーの種子が、宜野湾市に贈られた。

ビデオ、それに旗球が贈られた。また、四市郷友会からはブラジルの国イッペーの種子が、宜野湾市に贈られた。

1983年（昭和58年）5月19日（木）

武島氏が逆転当選か

県選管、市選管決定取り消す

宜野湾市選管（元・武島氏）を立てていたが、県選管は上白氏を、昨年九月十日に東の申し立てを認め、宜野湾市選管の動きが注目されてきた。県選管は、市選管の決定を取り消す。武島氏は、市選管の決定を取り消す。武島氏は、市選管の決定を取り消す。

(1)	(2)	(3)	(4)
宮城ミツヲ	宮城ミツヲ	宮城ミツヲ	宮城ミツヲ
宮城ミツヲ	宮城ミツヲ	宮城ミツヲ	宮城ミツヲ

①は宮城氏の票に入っていた。②は宮城氏の票に入っていた。③は宮城氏の票に入っていた。④は宮城氏の票に入っていた。

武島氏は、市選管の決定を取り消す。武島氏は、市選管の決定を取り消す。武島氏は、市選管の決定を取り消す。

1983年（昭和58年）5月28日（土）

宜野湾市

埋め立て 議会で承認 真志喜地先の公有水面

【宜野湾】宜野湾市議会は臨時議を開き、真志喜地の宜野湾市土地開発公社が計画を進めている真志喜地先有水面埋め立て免許出願に対する意見を町知事から求められた件で二十四日から三日間、異議のない議決をした。これによって、埋め立ては六月も埋め立てを認可するものとみられ、本格的な工事が進められる。

野党の革新クラブから集中的に疑問が出されたのは、漁業組合への補償問題。三日間にわたって安次喜盛市長にたたかした。それによると、宜野湾市が那覇地区漁協、那覇市沿岸漁協、浦添市漁協へ合算した補償額五億二千万円は、中浦市などに比べて約一・五億の補償額である。また、五十八年二月十二日三漁協との合意書では、五億二千万円が漁業補償となっていたのに、同四月二十五日の

補償承諾についての文書では、漁業補償金一億九千万円、残り二億三千万円は漁業振興資金となっており、これに真意をだした。

これに対し、安次喜市長は、従来の埋め立て工事は、漁協を破産させたまま、漁民に多大な不利益を与えてきた。二億三千万円の振興資金、失われた漁業の回復、漁業などの適成にあたいと答えた。しかし、実施計画の具体的な面になると、何一つ明快な答えがないと、野党議員の反発をかった。

1983年（昭和58年）7月21日（木）

夜間飛行禁止せよ

普天間の
爆音禍で

施設局に申し入れ

共産党議員

共産党議員会長の櫻井孝幸議員は、統一派の宮城正雄議員ら八人は、普天間航空基地の騒音問題で二十日午後、那覇防衛施設局の米田昭典次長を訪問し、米田次長は、騒音を軽減する飛行をただちに中止すると午後六時から翌朝六時までの飛行、エンジン調整の禁止のタッチ・アン

下・ゴーチを調停する。別機中止の普天間飛行場、即時撤去一本、米軍に申し入れや要求した。これに対し、米田次長は、基地での夜間飛行は、目米間の話し合いで原則的に午後十時から翌朝六時までは禁止となっている。昨夜（十九日）は午後十時をオーバーして羽

1983年（昭和58年）8月5日（金）

浮上した基地移設問題



中座知事公室長に対し、O44機の撤去を要請する
宜野湾市議会の代表（県庁議室）

解説

米海兵隊の輸送機O44スカイホーク八機の普天間基地への一時移駐は、騒音公害に苦しむ周辺住民の激しい反発を招いている。宜野湾市の市街地と真ん中に位置する同基地について西銘知事は再三、「移設の必要がある」と発言。基地外設も「市からの要請を持って国に正式に要請したい」との姿勢を示してきた。防衛施設庁、外務省は、中座知事の出方待ち、という態度だが、それだけに、今度のO44機の一時移駐は、普天間基地の移設問題を前進させることができるかどうかの大きな試金石になりそうだ。

普天間海兵隊飛行場

「米海兵隊は八月十五日から八月末まで、山口県・岩国基地の滑走路（約二千四百メートル）舗装工事を行う。第一海兵航空団（司令部：キャンプ・ため）陸路するようになった。

高まる撤去への声

スカイホーク移駐機に

「バトラー」指揮下の同基地には、約七十機の固定翼機が常駐しているが、工事中、F4ファントムを韓国に、A6イントルーパーをフィリピンに、O44スカイホークを普天間基地に分散し、移駐先で訓練を続ける計画だ。

明によると、O44機の移駐期間は八月から十月、毎日でこの間の離着陸訓練は一日あたり六十回ほど、十日前から十日までは十六回、それより多いとされている。宜野湾市の中央部に位置する普天間基地は、面積約四百八十一ヘクタール、市約三分の一を占める。CH53、CH46、A1、UH1などのヘリに加えて、OV10、KC10など、も常駐。機数は七十機を超え、米軍最大の輸送機C1A（ヘリ）もヘリ輸送のため陸路するようになった。

「ところが、市街地と真ん中にあるため騒音被害が絶えない。かつて、同市の騒音に悩む住民が、騒音に耐えかねて普天間基地司令部に苦情を言ったほどだ。飛行場を取り巻くように十一の学校があり、授業が中断されることもしばしばである。夜十時から朝六時までは原則として飛行機は飛べないことになっているが、騒音対策が五十五年五月、六月、九月に調査したところ騒音で五千四百回、四十五回の深夜飛行が確認された。

ある意味で、騒音問題以上に深刻なのが事故の危険である。復帰後の航空機事故を重ねて見ると、海兵隊が三十一件と全体の六割を占め、そのうち二十一件は普天間基地所属のヘリによる事故である（基地外設外設）。五十五年十月に起きたOV10プロシンの墜落事故は、住民被害も前向きにやっていた」と述べた。

と答えた。

用ひ地主会を組織できる

かつかにかかっている。

軍田部防衛施設局長は

四日、玉城第一公明党本部

長に対し、「知事さんから具

体的な話があれば、局として

も前向きにやっていた」と述べた。

（豊元朝浩記者）

と答えた。

普天間の移設問題を普天

間基地の移設問題にまで発展

させていくことができるかど

うか、市や地主会、市民団体、

県、今後の動きが注目される

と述べた。

（豊元朝浩記者）

と答えた。

普天間の移設問題を普天

間基地の移設問題にまで発展

させていくことができるかど

うか、市や地主会、市民団体、

県、今後の動きが注目される

と述べた。

（豊元朝浩記者）

と答えた。

普天間の移設問題を普天

間基地の移設問題にまで発展

させていくことができるかど

うか、市や地主会、市民団体、

県、今後の動きが注目される

と述べた。

（豊元朝浩記者）

と答えた。

普天間の移設問題を普天

間基地の移設問題にまで発展

させていくことができるかど

うか、市や地主会、市民団体、

県、今後の動きが注目される

と述べた。

（豊元朝浩記者）

と答えた。

普天間の移設問題を普天

1983年（昭和58年）8月9日（火）

「A4訓練は生活破壊」

宜野湾市議会 防衛施設庁に抗議

【東京】普天間飛行場での米軍のA4スカイホーク飛行訓練に対し、抗議する宜野湾市議会（石川仁、議長）代表は八日、防衛施設庁、外務省の夜間飛行訓練の騒音は市民生活に著しく破壊し、市民の怒りは頂点に達している」と、米軍機の騒音破壊の真相を厳しく説明、A4の移駐中止と、米軍飛行訓練の中止を求めた。

一行は、石川議長ほか与野党各派の七議員が参加した。これに対し、田中連絡調整官

らは、抗議の趣旨は上司に伝えて検討するしたもの、

具体的な回答は避けた。問題については、安次富盛信宜野湾市長も八日、政府にA4機の訓練は容認できない、としてその中止を要請した。

1983年（昭和58年）8月16日（火）

普天間基地を撤去せよ

宜野湾市民団体 北中城村議会 県、施設局に抗議

宜野湾市の普天間海兵航空基地へのO4スカイホーク戦闘攻撃機の移駐問題、宜野湾市民抗議委員会実行委員会と北中城村議会は十五日、県防衛施設局に同機の移駐に抗議するとともに普天間基地の撤去を要求した。同機の移駐に反対する決議は、すでに宜野湾、浦添、北中城の三市村で採択されており、「基地撤去」を求める佳民の声の中心とした同基地をめぐる諸問題の解決、具体的な対応を迫られることになりそう。

普天間飛行場は、宜野湾市の中央部に位置し、面積が約四・八平方キロ、同市の約四分の一を占めている。CH48、CH53、A1H1などの各機へリコプター、空中給油機、OV10ブロンコ観測機など計約七十機が駐機し、離着陸、整備訓練などで、周辺住民は「爆音に悩まされている」と、屋敷騒音に悩まされている。

宜野湾市は、同基地の地主が約一千八百人のほり、年間賃用地料が二十八億円を占め、基地周辺整備費を含めると約四十億円に達すると、なから「基地撤去を前面に打ち出していない。しかし、O4機の移駐について、O4機の移駐について、は「爆音に悩まされている」と、屋敷騒音に悩まされている。

移駐の即時中止を求めている。同市議会も、すでに移駐したO4機の撤去要求を決議した。

一方、浦添、北中城の両市村は、移駐の即時中止のほか、「普天間基地は住民地に隣接し、基地としては不適当である」と、早期返還を要求している。

こうしたなかで、県は「基本的に普天間は基地を撤去しない限り解決しない」として、基地の移設を検討しているが、代議地が見つからず、

確しているのが現状。これまでに普・下地島のパイロット訓練飛行場など移設先として取りざたされたが、結局は見送られたまま。

1984年（昭和59年）2月22日（水）

基地の増強許すな

宜野湾市議会 県に要請

宜野湾市議会の石川仁二議長らは二十一日午後、県庁を訪れ、仲座知事公室長に普天間飛行場の基地機能強化などの中止を要請した。機銃、普天間基地内に防空ミサイル施設が増強されたことは、市

の普天間基地移転の要求に逆行するものであるとし、県から米軍に同施設を増強を中止するよう申し入れてほしいと要請した。

要請団は、石川議長のほか宮城義典基地関係特別委員長ら七人。石川議長は「防空ミサイル施設が増強されたことに市民は大きな不安を抱いており、県から米軍に中止を要請してもらいたい」と述べた。

宮城委員長は「基地は市の中心部に位置し市民は危険な状態の中で生活している。これ以上の施設の増強は市民に不安を与えるばかりだ」と強調した。これに対して仲座知事公室長は「みなさんの要請は西銘知事にも伝え、在沖米四軍の担当官にも申し入れる」と答えた。

同市議会では二十日に「普天間飛行場の基地機能強化等の中止を要請する決議」を行っており、その決議文を石川議長から仲座知事公室長に手渡した。

普天間飛行場には機銃用ミサイルレドアイの教育訓練を担当する第一前線防空中隊が配備され、訓練施設の増強、機能強化が行われている。



仲座公室長（左）に普天間基地強化の中止を申し入れる宜野湾市議会の石川議長ら代表

1984年（昭和59年）5月22日（火）

こんな時に親善？

宜野湾市長、米司令官招きパーティー 革新市議団が撤回求める

【宜野湾】宜野湾市議会革
新クラブの我如古盛吉議員ら
八人は、二十一日午後四時こ
る市庁舎を訪れ、安次電盛信
市長が二十二日予定している
三米軍司令官や普天間航空基
地司令官、那覇防衛施設局関
係者を招いての親善パーティ
ーについて「十八日を機市
で起きた米軍発射の機密銃が
民間ダンクを要する重大事

件で城内が米軍に厳重抗議し
怒りの声がわき起こっている
なかでの親善パーティーは、
非難を市民にさらけ出すも
ので即刻中止せよと迫った。
革新市議団は、米軍関係者
と防衛施設局職員らも招待す
るパーティーがあるとの情報
で調べてみた結果、事実であ
ることを、文書で抗議し撤回
を申し入れたとしている。こ
計画され出席者は米軍高官、

米軍に反対する市民ら、米軍
部、米軍不動産部全職員、宜
野湾市議会正副議長ら約五十
人が予定されている。親善を
兼ねながら米軍施設内に建設
予定の第二市庁舎、普天間第
二小学校、市民広場近くの用
地の利用について話し合う予
定という。

革新市議団の抗議及びパー
ティー撤回要請書の内容は次
の通り。

米軍に対する怒りの声が興
内にわき起こっているさ中
に、安次電市長が、米軍、那
覇防衛施設局高官を招き、市
議会正副議長参加のもと、
ガーデンパーティーを開催す
ことは、宜野湾市民の非難を
受けることである。

これまで、重慶の学舎や連
日の発言などで大きな被害を
市民は受けている。今回の名
護市の親善通過事件は他人事
ではなく、本市においてい
つ発生するかわからない。市
長のとるべき態度は、速やか
に臨時議会を開き、米軍や関
係者に厳重抗議することであ
る。

1984年（昭和59年）5月22日（火）

米軍高官らとのパーティー中止

宜野湾市
安次電市長

「時期的に適当でない」

【宜野湾】米軍高官や那覇
防衛施設局職員らを招き、二
十二日親善パーティーを催す
予定だった安次電盛信市長
市長は、二十一日から二十二
日にかけて関係者を話し合った
結果、名護市での米軍機銃

被爆事件の折、時期的に「適
当でない」として中止するこ
とを決定。関係者は通達し、
宜野湾市議会革新クラブの
開催されれば、同日午後三時
から街頭で抗議行動をする考
えだった。

1985年（昭和60年）2月2日（土）

米軍演習やめさせよ

宜野湾市議会 那覇施設局に抗議

宜野湾市議会の川仁一議員は、昨（1）日午後、那覇市防衛施設局を訪れ、同施設局で採択した「C-130輸送機の普天間飛行場への飛来および作戦準備訓練に対する抗議」を、市民の生命と健康が阻害されることを懸念し、代わりの「三選間に普天間飛行場への飛来および作戦準備訓練を中止するよう求める」として、同施設局に抗議文を送った。

間飛行場（ジェット戦闘機用）のフレックス（柔軟）な運用が、増大される問題がある。基地司令官に対し抗議を申し入れ、同司令官から「安全対策としては中止を申し入れる立場ではない」として、抗議は「あつた」として米軍側に伝えられた。また、同議会は、同日、在米海兵隊基地司令官と普天間基地司令官に対し米軍演習の中止を求めた。これに対し、私法室局長は、

1985年（昭和60年）3月19日（火）



姉妹都市決議を東郷町に電話連絡し、喜び合う関係者

宜野湾市と宮崎県
東郷町が姉妹都市に

疎開が縁で交流

【宜野湾】定例会開会中の宜野湾市議会（川仁一議長）は、十八日午後、宜野湾市と宮崎県東郷町の姉妹都市提携を決めた。東郷町もこの日議会で姉妹都市決議を、四月の吉日を選んで、東郷町から市長や議員ら関係者が宜野湾市を

訪れる。姉妹都市提携決議後、議会は休会に入り、安次富市長、川仁議長、大里副議長、多岐、東郷町に電話連絡、両市町での議決決議を喜びあ

1985年（昭和60年）7月13日（土）

米軍ヘリ 北部山中に墜落

普天間基地所属のCH-53

3人死亡、1人不明

演習中に
空中爆発
訓練地域外か

【国連】二十五年午後三十分、国連村の近野ダム（建設中）近くの林道に警備員長崎盛幸、基地・第一海兵隊司令部第三らへ海軍重中隊所属のC-47D型ヘリコプターが墜落した。同ヘリは、重傷を負った西国人が乗組んでいたが、八人が死亡、一人が行方不明だが、絶望視されている。目撃者の話によると、ヘリは燃料、分解で墜落したといふ。墜落地付近には野豊ダム建設の関連工事に携わっていた作業員がいた。

某市西人が、この如き一歩進んだ「無事件」にならない状況に、事故が起きたら、それは、軍事地帯でなければならぬ。軍事地帯と隣り合わせで生活する危険な故に、きつ形にした。また、事故が起きたら、それは、軍事地帯でなければならぬ。軍事地帯と隣り合わせで生活する危険な故に、きつ形にした。また、事故が起きたら、それは、軍事地帯でなければならぬ。軍事地帯と隣り合わせで生活する危険な故に、きつ形にした。

したあと樹林の間から黒煙が立ちのぼり、炎も見えた。また、墜落した直後に大きな爆発音も聞こえたという。

道を本部警察の約五二
いたの地盤で、照林林道二
余ったの地盤の林道で、密
茶の樹の約四三、以上を伐採
作業が、密茶地帯内約三三
の場所ではササキ中興の職員
四が辺野アサヒ市に所属して
土の整備の整備市をしてい
た。空中分解した車へリコ
プターの破片はササキ製造の
機体の周囲にも散ら下り、樹
木のためには、約百六十
五平方メートルに及んだ。



地上にたたきつけられたように墜落、黒焦げになった米軍ヘリの
事故現場＝本社チャーター機より

[illegible]

1985年（昭和60年）7月13日（土）

目の前で爆発 火の玉が……

伐採作業員ら命びろい

【国頭】「目の前で突然爆発、いきなり火の玉が落ちてきた」ほんの少し作業場所が間違えはきき添えをうと人も犠牲者が出る「大惨事」に終わった。土曜午後、米軍ヘリが空上墜落したの

は、国道2号（与那・安田橋）から県道1号を北に約二キロ入ったところ。約五百ほど近くでは、国頭村森林組合の組合員数人がイシイなどの木を伐採していた。また、辺野湾タムの進入道路でも、大森で開けた道路の復興作業員がおり、多くの民間人がヘリの墜落を目撃した。これら一般人の話によると、二機のヘリが並行して飛来、辺野湾ダム側から安田向

恐怖さらに実感

宜野湾きよう議会で抗議

【宜野湾】また起きた普天間基地所属の米軍ヘリ墜落事故。土曜午後、国頭村の山中に米海兵隊の大型ヘリCH-53Dシースターオンが墜落、同基地所属の大型ヘリの墜に大きな衝撃を与えて、死者は二名、重傷者一名、軽傷者一名、不明になった事故は同ヘリが、機子帰還中、同型のCH-53で事故を知った宜野湾市当局

リートに火を開けるほど激突した。事故現場に居合わせていた玉城宏行総務課長も「北部訓練場区域でこんな低空飛行で訓練していたのか」と怒りの表情を見せていた。

一方、辺野湾ダム本体工事現場には直線距離にして五、六百メートルの距離での墜落事故。騒音と炎で事故を知った工事関係者も一様に厳しい表情を見せ、「工事現場に墜落していたら」と胸をなでおろし、米軍の飛行訓練事故に強い怒りを見せていた。

高城信市長は十三日午前、那覇防衛施設局を訪ねて抗議する。また、宜野湾市議会（川仁二議長）も十三日午後にはヘリ墜落事故に抗議して臨時議事を招集するとしている。

一方、革新団体も十三日夕方から開かれた宜野湾市道徳予定候補の模範正賢氏の総決起大会で、ヘリ墜落に抗議する大会決議を採択。十三日も各団体結ぶための抗議集会を開く計だ。

1985年（昭和60年）7月14日（日）

一切の演習、即時中止せよ

国頭、宜野湾市議会が抗議決議

訓練場の返還も

国頭 あす施設局に抗議

辺野川下の米軍ヘリコプターの墜落事故を痛めた国頭村議会（与野合議体）は十三日午後三時から第六回臨時議を開き、①北部訓練場及びその周辺での一切の軍事演習を即時中止する、②北部訓練場と安部訓練場を早急に返還する、③補償を要する、④高野橋を全一線で採択した。また、国頭村（宮城野村）と協議

会は五日午前、那覇防衛施設局に抗議行動を繰り出す。新天間基地の米海兵隊は十八日以降、宮城野村と十八人の合議が協議する。また、宜野湾市議会（与野合議体）も同日「拒ぐ新天間基地のヘリコプター墜落事故に対する抗議決議」を採択した。（要旨・漢文は左面、関連方面）

普天間基地の撤去要求 宜野湾

ダチラやヤバルグイの事故原因究明までの一切の訓練の即時中止を普天間基地の早期撤去を要求している。地所議の大型輸送ヘリCJ53

一步誤れば 大惨事の恐れ

米軍、中爆発脱走を否定
在米海兵隊普天間基地
在米海兵隊普天間基地



北部訓練場とその周辺での一切の軍事演習の即時中止などの意見書を採択した国頭村の臨時議会

度重なる事故 容認できない

【宜野湾】宜野湾市議会（与野合議体）は十三日午後、臨時議を開き、「拒ぐ普天間基地のヘリコプター墜落事故に対する抗議決議」を全会一致で採択した。同市議会は六月定例会で普天間基地の移設を要求する決議を採択している。

【国頭】国頭村の臨時議会は、昔から山を愛し、育つてきた古戦場が、また村に近づく米軍訓練場理由を説明「今回の事故は、あつたのは偶然であり、自衛隊が訓練場を移設して、あつた一利もな。許さず、訓練場を移設する。米軍とて、あつた事故である。北ヘリコプターの事故は過去五年間に七十九人が死んでいる。国頭山地には、

決議内容は「基地があるがゆえに発生した事故であり容認できない。市民の生命と財産を守るため度重なる軍事事故に抗議し、容認できない」というもの。さらに、①在日米軍司令官に在住民への謝罪の要請、事故の原因の徹底究明と公表、

米軍大型ヘリ墜落事故

が、国頭村の山中で空中墜落して墜落した事故は十三日、米、那覇防衛施設局の調べで民間地帯と断された。

現場は、米軍北部訓練場に隣接した途中の辺野川から約五百メートルの工事のために切り開いた作業道で、掘削機（掘削機）の外側、一歩誤れば、建設現場に墜落し、大惨事を招く可能性もあった。

現場近くで車を自爆した林道工事関係者は、事故時「空中墜落して墜落した」と証言したが、在米海兵隊は「墜落はエッジの墜落で、機体そのものの墜落ではないと見られる。機体がメチャメチャに壊れ、周辺に散乱したのは、地に墜落した際の衝撃によるものとみられる」と、空中墜落説には否定した。

しかし、墜落があった事実を認め、回収した機体の残骸の鑑定や現場鑑定などで原因究明を急いでいる。

1985年（昭和60年）10月2日（水）

国旗、国歌斉唱を可決

宜野湾市議会 野党議員が緊急動議

【宜野湾】宜野湾市の第百四十二回定例会（石川仁一議長）は最終日の一日、野党議員から緊急動議された「国旗掲揚及び国歌斉唱実行に関する決議案」を賛成多数で可決した。

緊急決議は自民クラブや新政会、市政研究会などに所属する野党議員から提案され、与野議員の反対討論や質疑が行われたが、緊急決議の約一時間後には賛成多数で可決された。

議場では傍聴の労組員からのやじや怒号が飛び交い、与

1985年（昭和60年）11月6日（水）

助役人事を否決

新市長、野党多数の悲哀

宜野湾市

た格好。これから市制50周年などの時期を迎えるだけに、桃原市長は「行政は市民のためであるのであり、議会のためではない。助役不在という形は憲法的で地方自治という観点からも市民本位ではない。まったく残念」と話していた。

【宜野湾】宜野湾市議会石川仁一議長の臨時議が五日開かれ、空席のままになっている助役の選任議案が市当局から提出されたが、野党の反対多数で否決された。

宜野湾市では岨安二前助役が九月十日付で退任。以来助役が空席のままになっている。桃原正賢市長は九月定例会でも助役選任議案を提出しようとしたが、与野党の調整がうまくいかず、議事日程にはあげられず提案できないといういきさつがあった。今臨時議会には事前調整もうまくいったとして最終議案として提出。桃原市長が選挙経過を説明したあと審議に入った。しかし、一件の反対討論や質疑もないまま採決に移り、出席二十九議員のうち賛成十三人、反対十五人、棄権一人で否決された。

1986年（昭和61年）3月28日（金）

予算案など流れる

自衛官の募集費で対立

宜野湾市議会

【宜野湾】開会中の宜野湾市議会（石川一議長）は、二十七日午前十時から最終本会議を開き、自衛官募集業務委託費の取り扱いをめぐって、市当局と野党が対立、結局、六十一年度予算案と助役選任

案の二件を採決することができず、二十八日に延会になった。

度予算案には同業務委託費二万五千円は計上しなかった。そのため野党側が二十七日の本会議で同業務委託費を予算に組み入れることを要求、休会して野党と市当局の話し合いが続けられた。

だが、「国体での協力を自衛隊に要請しているのに募集業務を行わないのは矛盾」として、追及する野党側に対し、桃原正賢市長は「自衛隊に対する私の態度は一貫している。募集業務を行うのは政治理念に反する」と主張。残された同予算案と助役選任案件を採決することができず、二十八日まで議会を一日延長した。

1986年（昭和61年）7月12日（土）

軍工事の優先発注を

浦添、具志川、沖縄、宜野湾、名護市議会

国、米四軍あて要請決議

浦添、具志川、沖縄、宜野湾、名護市議会の五市議会は、六月、同組合は、米軍基地を有する定例会「米軍関連工事を実施する市町村議会に同様の決内業者を優先発注する」と議を賛同、残りの市町村議会に決議した。米軍関連施設、設備、構造物の整備、改良、増設、修繕、維持管理、加給の増進を要請している。米軍関連

の工事金額は年間約五百億円、そのうち防衛施設局施工金額が約三百億円、米四軍が約二百億円とされる。契約金額を年度別、県内、県外業者の比率でみると、五十八年度は五〇％の同比率だったが五十九年度では県内四一％、県外五九％だった。それが六十年度は県内四十二％、県外五八％に、六一年度は県内四十一％、県外五九％に、六十二年度は県内四十一％、県外五九％に、六十三年度は県内四十一％、県外五九％に、六十四年度は県内四十一％、県外五九％に、六十五年度は県内四十一％、県外五九％に、六十六年度は県内四十一％、県外五九％に、六十七年度は県内四十一％、県外五九％に、六十八年度は県内四十一％、県外五九％に、六十九年度は県内四十一％、県外五九％に、七十年度は県内四十一％、県外五九％に、七十一年度は県内四十一％、県外五九％に、七十二年度は県内四十一％、県外五九％に、七十三年度は県内四十一％、県外五九％に、七十四年度は県内四十一％、県外五九％に、七十五年度は県内四十一％、県外五九％に、七十六年度は県内四十一％、県外五九％に、七十七年度は県内四十一％、県外五九％に、七十八年度は県内四十一％、県外五九％に、七十九年度は県内四十一％、県外五九％に、八十年度は県内四十一％、県外五九％に、八十一年度は県内四十一％、県外五九％に、八十二年度は県内四十一％、県外五九％に、八十三年度は県内四十一％、県外五九％に、八十四年度は県内四十一％、県外五九％に、八十五年度は県内四十一％、県外五九％に、八十六年度は県内四十一％、県外五九％に、八十七年度は県内四十一％、県外五九％に、八十八年度は県内四十一％、県外五九％に、八十九年度は県内四十一％、県外五九％に、九十年度は県内四十一％、県外五九％に、九十一年度は県内四十一％、県外五九％に、九十二年度は県内四十一％、県外五九％に、九十三年度は県内四十一％、県外五九％に、九十四年度は県内四十一％、県外五九％に、九十五年度は県内四十一％、県外五九％に、九十六年度は県内四十一％、県外五九％に、九十七年度は県内四十一％、県外五九％に、九十八年度は県内四十一％、県外五九％に、九十九年度は県内四十一％、県外五九％に、千九百八十年度は県内四十一％、県外五九％に、千九百八十一年度は県内四十一％、県外五九％に、千九百八十二年度は県内四十一％、県外五九％に、千九百八十三年度は県内四十一％、県外五九％に、千九百八十四年度は県内四十一％、県外五九％に、千九百八十五年度は県内四十一％、県外五九％に、千九百八十六年度は県内四十一％、県外五九％に、千九百八十七年度は県内四十一％、県外五九％に、千九百八十八年度は県内四十一％、県外五九％に、千九百八十九年度は県内四十一％、県外五九％に、千九百九十年度は県内四十一％、県外五九％に、千九百九十一年度は県内四十一％、県外五九％に、千九百九十二年度は県内四十一％、県外五九％に、千九百九十三年度は県内四十一％、県外五九％に、千九百九十四年度は県内四十一％、県外五九％に、千九百九十五年度は県内四十一％、県外五九％に、千九百九十六年度は県内四十一％、県外五九％に、千九百九十七年度は県内四十一％、県外五九％に、千九百九十八年度は県内四十一％、県外五九％に、千九百九十九年度は県内四十一％、県外五九％に、二千九百八十年度は県内四十一％、県外五九％に、二千九百八十一年度は県内四十一％、県外五九％に、二千九百八十二年度は県内四十一％、県外五九％に、二千九百八十三年度は県内四十一％、県外五九％に、二千九百八十四年度は県内四十一％、県外五九％に、二千九百八十五年度は県内四十一％、県外五九％に、二千九百八十六年度は県内四十一％、県外五九％に、二千九百八十七年度は県内四十一％、県外五九％に、二千九百八十八年度は県内四十一％、県外五九％に、二千九百八十九年度は県内四十一％、県外五九％に、二千九百九十年度は県内四十一％、県外五九％に、二千九百九十一年度は県内四十一％、県外五九％に、二千九百九十二年度は県内四十一％、県外五九％に、二千九百九十三年度は県内四十一％、県外五九％に、二千九百九十四年度は県内四十一％、県外五九％に、二千九百九十五年度は県内四十一％、県外五九％に、二千九百九十六年度は県内四十一％、県外五九％に、二千九百九十七年度は県内四十一％、県外五九％に、二千九百九十八年度は県内四十一％、県外五九％に、二千九百九十九年度は県内四十一％、県外五九％に、三千九百八十年度は県内四十一％、県外五九％に、三千九百八十一年度は県内四十一％、県外五九％に、三千九百八十二年度は県内四十一％、県外五九％に、三千九百八十三年度は県内四十一％、県外五九％に、三千九百八十四年度は県内四十一％、県外五九％に、三千九百八十五年度は県内四十一％、県外五九％に、三千九百八十六年度は県内四十一％、県外五九％に、三千九百八十七年度は県内四十一％、県外五九％に、三千九百八十八年度は県内四十一％、県外五九％に、三千九百八十九年度は県内四十一％、県外五九％に、三千九百九十年度は県内四十一％、県外五九％に、三千九百九十一年度は県内四十一％、県外五九％に、三千九百九十二年度は県内四十一％、県外五九％に、三千九百九十三年度は県内四十一％、県外五九％に、三千九百九十四年度は県内四十一％、県外五九％に、三千九百九十五年度は県内四十一％、県外五九％に、三千九百九十六年度は県内四十一％、県外五九％に、三千九百九十七年度は県内四十一％、県外五九％に、三千九百九十八年度は県内四十一％、県外五九％に、三千九百九十九年度は県内四十一％、県外五九％に、四千九百八十年度は県内四十一％、県外五九％に、四千九百八十一年度は県内四十一％、県外五九％に、四千九百八十二年度は県内四十一％、県外五九％に、四千九百八十三年度は県内四十一％、県外五九％に、四千九百八十四年度は県内四十一％、県外五九％に、四千九百八十五年度は県内四十一％、県外五九％に、四千九百八十六年度は県内四十一％、県外五九％に、四千九百八十七年度は県内四十一％、県外五九％に、四千九百八十八年度は県内四十一％、県外五九％に、四千九百八十九年度は県内四十一％、県外五九％に、四千九百九十年度は県内四十一％、県外五九％に、四千九百九十一年度は県内四十一％、県外五九％に、四千九百九十二年度は県内四十一％、県外五九％に、四千九百九十三年度は県内四十一％、県外五九％に、四千九百九十四年度は県内四十一％、県外五九％に、四千九百九十五年度は県内四十一％、県外五九％に、四千九百九十六年度は県内四十一％、県外五九％に、四千九百九十七年度は県内四十一％、県外五九％に、四千九百九十八年度は県内四十一％、県外五九％に、四千九百九十九年度は県内四十一％、県外五九％に、五千九百八十年度は県内四十一％、県外五九％に、五千九百八十一年度は県内四十一％、県外五九％に、五千九百八十二年度は県内四十一％、県外五九％に、五千九百八十三年度は県内四十一％、県外五九％に、五千九百八十四年度は県内四十一％、県外五九％に、五千九百八十五年度は県内四十一％、県外五九％に、五千九百八十六年度は県内四十一％、県外五九％に、五千九百八十七年度は県内四十一％、県外五九％に、五千九百八十八年度は県内四十一％、県外五九％に、五千九百八十九年度は県内四十一％、県外五九％に、五千九百九十年度は県内四十一％、県外五九％に、五千九百九十一年度は県内四十一％、県外五九％に、五千九百九十二年度は県内四十一％、県外五九％に、五千九百九十三年度は県内四十一％、県外五九％に、五千九百九十四年度は県内四十一％、県外五九％に、五千九百九十五年度は県内四十一％、県外五九％に、五千九百九十六年度は県内四十一％、県外五九％に、五千九百九十七年度は県内四十一％、県外五九％に、五千九百九十八年度は県内四十一％、県外五九％に、五千九百九十九年度は県内四十一％、県外五九％に、六千九百八十年度は県内四十一％、県外五九％に、六千九百八十一年度は県内四十一％、県外五九％に、六千九百八十二年度は県内四十一％、県外五九％に、六千九百八十三年度は県内四十一％、県外五九％に、六千九百八十四年度は県内四十一％、県外五九％に、六千九百八十五年度は県内四十一％、県外五九％に、六千九百八十六年度は県内四十一％、県外五九％に、六千九百八十七年度は県内四十一％、県外五九％に、六千九百八十八年度は県内四十一％、県外五九％に、六千九百八十九年度は県内四十一％、県外五九％に、六千九百九十年度は県内四十一％、県外五九％に、六千九百九十一年度は県内四十一％、県外五九％に、六千九百九十二年度は県内四十一％、県外五九％に、六千九百九十三年度は県内四十一％、県外五九％に、六千九百九十四年度は県内四十一％、県外五九％に、六千九百九十五年度は県内四十一％、県外五九％に、六千九百九十六年度は県内四十一％、県外五九％に、六千九百九十七年度は県内四十一％、県外五九％に、六千九百九十八年度は県内四十一％、県外五九％に、六千九百九十九年度は県内四十一％、県外五九％に、七千九百八十年度は県内四十一％、県外五九％に、七千九百八十一年度は県内四十一％、県外五九％に、七千九百八十二年度は県内四十一％、県外五九％に、七千九百八十三年度は県内四十一％、県外五九％に、七千九百八十四年度は県内四十一％、県外五九％に、七千九百八十五年度は県内四十一％、県外五九％に、七千九百八十六年度は県内四十一％、県外五九％に、七千九百八十七年度は県内四十一％、県外五九％に、七千九百八十八年度は県内四十一％、県外五九％に、七千九百八十九年度は県内四十一％、県外五九％に、七千九百九十年度は県内四十一％、県外五九％に、七千九百九十一年度は県内四十一％、県外五九％に、七千九百九十二年度は県内四十一％、県外五九％に、七千九百九十三年度は県内四十一％、県外五九％に、七千九百九十四年度は県内四十一％、県外五九％に、七千九百九十五年度は県内四十一％、県外五九％に、七千九百九十六年度は県内四十一％、県外五九％に、七千九百九十七年度は県内四十一％、県外五九％に、七千九百九十八年度は県内四十一％、県外五九％に、七千九百九十九年度は県内四十一％、県外五九％に、八千九百八十年度は県内四十一％、県外五九％に、八千九百八十一年度は県内四十一％、県外五九％に、八千九百八十二年度は県内四十一％、県外五九％に、八千九百八十三年度は県内四十一％、県外五九％に、八千九百八十四年度は県内四十一％、県外五九％に、八千九百八十五年度は県内四十一％、県外五九％に、八千九百八十六年度は県内四十一％、県外五九％に、八千九百八十七年度は県内四十一％、県外五九％に、八千九百八十八年度は県内四十一％、県外五九％に、八千九百八十九年度は県内四十一％、県外五九％に、八千九百九十年度は県内四十一％、県外五九％に、八千九百九十一年度は県内四十一％、県外五九％に、八千九百九十二年度は県内四十一％、県外五九％に、八千九百九十三年度は県内四十一％、県外五九％に、八千九百九十四年度は県内四十一％、県外五九％に、八千九百九十五年度は県内四十一％、県外五九％に、八千九百九十六年度は県内四十一％、県外五九％に、八千九百九十七年度は県内四十一％、県外五九％に、八千九百九十八年度は県内四十一％、県外五九％に、八千九百九十九年度は県内四十一％、県外五九％に、九千九百八十年度は県内四十一％、県外五九％に、九千九百八十一年度は県内四十一％、県外五九％に、九千九百八十二年度は県内四十一％、県外五九％に、九千九百八十三年度は県内四十一％、県外五九％に、九千九百八十四年度は県内四十一％、県外五九％に、九千九百八十五年度は県内四十一％、県外五九％に、九千九百八十六年度は県内四十一％、県外五九％に、九千九百八十七年度は県内四十一％、県外五九％に、九千九百八十八年度は県内四十一％、県外五九％に、九千九百八十九年度は県内四十一％、県外五九％に、九千九百九十年度は県内四十一％、県外五九％に、九千九百九十一年度は県内四十一％、県外五九％に、九千九百九十二年度は県内四十一％、県外五九％に、九千九百九十三年度は県内四十一％、県外五九％に、九千九百九十四年度は県内四十一％、県外五九％に、九千九百九十五年度は県内四十一％、県外五九％に、九千九百九十六年度は県内四十一％、県外五九％に、九千九百九十七年度は県内四十一％、県外五九％に、九千九百九十八年度は県内四十一％、県外五九％に、九千九百九十九年度は県内四十一％、県外五九％に、

1986年（昭和61年）7月30日（水）

米軍ヘリで抗議決議

宜野湾市議会が全会一致

【宜野湾】先日、中城村内で発生した米軍ヘリの緊急着陸事故で宜野湾市議会（石川、仁二議長）は十九日に開かれた臨時議会で「度重なる米軍ヘリコプター事故に対するヘリが計器に異常を呈せ、民抗議決議」を全会一致で採択、問地城に緊急着陸したもの

で、同ヘリが普天間基地所属だったことから、宜野湾市議会でも抗議決議になった。決議内容は「事故のたびに再発防止を厳しく訴えてきたにもかかわらず、ましては住民地区での不時着事故をひき起こし、地域住民に大きな恐怖を与えた。極めて深刻な事態であり、危険性を如実に証明し、いつ市民の頭上を飛ぶかもしれないという、市民の不安と怒りの頂点を達している」と抗議飛行場をめぐり、市民の人命と財産を守るため、たび重なるヘリ事故に対し、激しい憤りをもって厳

県内業者の契約が好転している。これは「JY方式（共同契約）を締結し県内業者への割り振りに努力した結果」と施設局は説明している。同組合では、在米米軍にも抗議の意を表明し、今後米軍関連工事の発注を促進していくとしている。決議のあて先は、内閣総理大臣、防衛庁長官、防衛施設庁長官、那覇防衛施設局長、それに在米米軍四軍など。

1986年（昭和61年）9月8日（月）

当選者の顔ぶれ

市町村議会
議員選挙

宜野湾市

(定数31 立候補41)

 大久保 隆夫 (56) 無・現 市議 第一会区 大久保 隆夫	 石川 仁 (56) 無・現 市議 第二会区 石川 仁	 天久 嘉英 (55) 無・新 市議 第三会区 天久 嘉英	 伊佐 昌典 (55) 無・現 市議 第四会区 伊佐 昌典	 佐藤 真一 (54) 無・新 市議 第五会区 佐藤 真一	 知念 清英 (53) 無・新 市議 第六会区 知念 清英	 前川 順一 (51) 無・元 市議 第七会区 前川 順一	 平山 隆雄 (49) 無・現 市議 第八会区 平山 隆雄	 倉嶋 清武 (46) 無・新 市議 第九会区 倉嶋 清武	 市川 隆夫 (45) 無・現 市議 第十会区 市川 隆夫	 志賀 隆夫 (45) 無・現 市議 第十一会区 志賀 隆夫	 志賀 隆夫 (45) 無・現 市議 第十二会区 志賀 隆夫
 大久保 隆夫 (56) 無・現 市議 第十三会区 大久保 隆夫	 石川 仁 (56) 無・現 市議 第十四会区 石川 仁	 天久 嘉英 (55) 無・新 市議 第十五会区 天久 嘉英	 伊佐 昌典 (55) 無・現 市議 第十六会区 伊佐 昌典	 佐藤 真一 (54) 無・新 市議 第十七会区 佐藤 真一	 知念 清英 (53) 無・新 市議 第十八会区 知念 清英	 前川 順一 (51) 無・元 市議 第十九会区 前川 順一	 平山 隆雄 (49) 無・現 市議 第二十会区 平山 隆雄	 倉嶋 清武 (46) 無・新 市議 第二十一会区 倉嶋 清武	 市川 隆夫 (45) 無・現 市議 第二十二会区 市川 隆夫	 志賀 隆夫 (45) 無・現 市議 第二十三会区 志賀 隆夫	 志賀 隆夫 (45) 無・現 市議 第二十四会区 志賀 隆夫
 大久保 隆夫 (56) 無・現 市議 第二十五会区 大久保 隆夫	 石川 仁 (56) 無・現 市議 第二十六会区 石川 仁	 天久 嘉英 (55) 無・新 市議 第二十七会区 天久 嘉英	 伊佐 昌典 (55) 無・現 市議 第二十八会区 伊佐 昌典	 佐藤 真一 (54) 無・新 市議 第二十九会区 佐藤 真一	 知念 清英 (53) 無・新 市議 第三十会区 知念 清英	 前川 順一 (51) 無・元 市議 第三十一会区 前川 順一	 平山 隆雄 (49) 無・現 市議 第三十二会区 平山 隆雄	 倉嶋 清武 (46) 無・新 市議 第三十三会区 倉嶋 清武	 市川 隆夫 (45) 無・現 市議 第三十四会区 市川 隆夫	 志賀 隆夫 (45) 無・現 市議 第三十五会区 志賀 隆夫	 志賀 隆夫 (45) 無・現 市議 第三十六会区 志賀 隆夫
 大久保 隆夫 (56) 無・現 市議 第三十七会区 大久保 隆夫	 石川 仁 (56) 無・現 市議 第三十八会区 石川 仁	 天久 嘉英 (55) 無・新 市議 第三十九会区 天久 嘉英	 伊佐 昌典 (55) 無・現 市議 第四十会区 伊佐 昌典	 佐藤 真一 (54) 無・新 市議 第四十一会区 佐藤 真一	 知念 清英 (53) 無・新 市議 第四十二会区 知念 清英	 前川 順一 (51) 無・元 市議 第四十三会区 前川 順一	 平山 隆雄 (49) 無・現 市議 第四十四会区 平山 隆雄	 倉嶋 清武 (46) 無・新 市議 第四十五会区 倉嶋 清武	 市川 隆夫 (45) 無・現 市議 第四十六会区 市川 隆夫	 志賀 隆夫 (45) 無・現 市議 第四十七会区 志賀 隆夫	 志賀 隆夫 (45) 無・現 市議 第四十八会区 志賀 隆夫
 大久保 隆夫 (56) 無・現 市議 第四十九会区 大久保 隆夫	 石川 仁 (56) 無・現 市議 第五十会区 石川 仁	 天久 嘉英 (55) 無・新 市議 第五十一会区 天久 嘉英	 伊佐 昌典 (55) 無・現 市議 第五十二会区 伊佐 昌典	 佐藤 真一 (54) 無・新 市議 第五十三会区 佐藤 真一	 知念 清英 (53) 無・新 市議 第五十四会区 知念 清英	 前川 順一 (51) 無・元 市議 第五十五会区 前川 順一	 平山 隆雄 (49) 無・現 市議 第五十六会区 平山 隆雄	 倉嶋 清武 (46) 無・新 市議 第五十七会区 倉嶋 清武	 市川 隆夫 (45) 無・現 市議 第五十八会区 市川 隆夫	 志賀 隆夫 (45) 無・現 市議 第五十九会区 志賀 隆夫	 志賀 隆夫 (45) 無・現 市議 第六十会区 志賀 隆夫

1986年（昭和61年）9月9日（火）

市町村議会議員選挙得票数

宜野湾市

（定数31、立候補41）

（最終）

当1259	恩河 徹夫	45	公・現
当1257	大城 政利	35	公・新
当1113	伊波 善雄	53	無・新
当1090	宮里 真古	49	無・新
当1047	砂川 晃章	48	無・現
当999	平安座 唯雄	41	無・現
当987	大城 真淳	46	無・現
当985	仲村 春信	56	無・現
当984	知念 忠二	52	共・現
当981	安次富 修	30	無・新
当981	宮城 邦雄	55	無・新
当980	名城 俊治	55	無・現
当934	天久 嘉栄	52	無・新
当919	伊佐 雅仁	50	無・元
当916	伊佐 吉秀	52	無・現
当911	我如古 盛吉	54	無・現
当907	前川 朝平	41	無・元
当907	佐喜真 博	47	無・新
当906	佐喜真 祐輝	45	無・元
当895	呉屋 正行	50	無・現
当888	上江洲 安儀	50	無・現
当841	佐喜真 幸一	64	無・現
当819	宮城 善正	55	無・現
当817	屋良 朝勇	45	共・現
当792	大川 昇	64	無・元
当779	古波津 由信	60	無・現
当778	知念 清栄	39	無・新
当767	金城 清武	46	無・新
当760	石川 仁一	56	無・現
当744	椿 健義	61	無・現
当735	知花 貞正	47	無・現
当686	知念 善光	45	無・現
当679	宮城 光雄	61	社大・現
当671	伊佐 幸一	56	無・現
当660	宮城 盛昌	47	無・現
当623	宮城 義男	62	無・前
当590	田場 功	41	無・新
当589	金武 正信	46	無・新
当588	仲本 卜ヨ子	60	無・新
当575	伊波 清助	56	無・現
当516	渡慶次 均	44	無・現

1986年（昭和61年）12月26日（金）

アクアポリス誘 致決議など採択

宜野湾市議会

【宜野湾】宜野湾市議会石川石一議長）の十二月定例会は二十五日の最終本会議で「アクアポリスの誘致要請決

議」と米軍の時給制等導入撤回の意見書を全会一致で採択した。「アクアポリス」は那覇市議会に次ぐ決議で早速、二十六日から具体的な要請行動を展開することになっている。

「アクアポリス誘致要請」の決議は同市真志喜の埋立地の海浜公園が将来は一大文化観光地に発展することが期待されているとしたうえで、来年三月の用途解除後のアクアポリスを同地域内にある県コンベンションセンターと連動させ、観光客の誘致を図る

なり有効的に活用して観光資源の活性化に寄与させようという内容。

知事、県議会議長、アクアポリス管理財団理事長あてになつてゐる。

また、米軍の合理化に反対する「軍関係職場への時給臨時雇用制度導入および海兵隊クラブ従業員の大量解雇等の撤回に関する意見書」は北中城村議会などに次ぐもの。

田高・ドル安を理由に米軍が進めている基地従業員のパート化とクラブ従業員三百人の解雇計画の撤回を求めている。

そのほか、同市議会では市当局が提案していた市の機構改革案である「市部設置条例改正案」と「市職員定数条例一部改正案」が継続審議になった。

海浜公園に移設を

他方面での活用方法を検討中だ。県外へ譲るとはしないと、思つてゐた。

海洋博のシンボルとして建造されたアクアポリスは、海洋博後は興が買い取り、アクアポリス管理財団が運営している。しかし国との売買契約で用途が指定されており、今年三月までは転用、処分できない状態だった。

他方面での活用方法を検討中だ。県外へ譲ることはないと思う」と答えた。

海洋博のシンボルとして建造されたアクアポリスは、海

1987年（昭和62年）4月9日（木）

ヘリ緊急着陸

十分な安全管理を

宜野濱市長が米軍に抗議

「官野瀧、米海兵隊の大型ヘリが有那村の公園に墜ちて緊急降陸した問題。官野瀧市の警察は、この問題を、官野瀧市にある警備隊司令部に知らせた。その結果、官野瀧市では過去にも幾度か事故を起してしており、機墜すると事故をするたびに、民間地上空とは違って、一日の抗議になる訓練も即時に中止するように」と抗議した。

官のD・J・カナス中佐は、桃原市長の抗議に対し、「へりには機体の点検のために降りたのであり、事故は起きない」と主張し、事故は起きると主張する者との二種とを述べ、事故は認めなかったという。

議になった。

10

1987年（昭和62年）4月17日（金）

人ごとでない事故

へり緊急着陸で要請決議

宜野湾市議会

「富野町、米田兵隊の如く」
へりが与那村内の公園に集
と前置き。富野町市民の頭
に「つぎ警察署が来る、すか
予断を下さす、その危険性
が甚だし、七千人に及ぶ
と恐ろしを満ちさせた」と
して、「市民の難い人命と
財産を守るため、たばかた
る事故は避け、まよい」と祈
る。

さらに、住居地、米田、
軍用機の訓練場は故郷にや
め、今回の集約の故郷の困
を説明し、真相を公表する。

あて先は防衛庁、米田、
米田警察署、司令官。那
防衛庁局長、米田警察署
司令官は直接、決断文を手
達せよとしている。

「富野町、米田兵隊の如く」
へりが与那村内の公園に集
と前置き。富野町市民の頭
に「つぎ警察署が来る、すか
予断を下さす、その危険性
が甚だし、七千人に及ぶ
と恐ろしを満ちさせた」と
して、「市民の難い人命と
財産を守るため、たばかた
る事故は避け、まよい」と祈
る。

さらに、住居地、米田、
軍用機の訓練場は故郷にや
め、今回の集約の故郷の困
を説明し、真相を公表する。

と云ふ事である。

あて先は防衛施設庁長官や
米海兵隊基地司令官など。那
覇防衛施設局長と暮天間基地
司令官には直接、決議文を手
渡すつもりである。

1987年（昭和62年）8月8日（土）

飛来と訓練中止せよ

F A 18機で抗議決議



【宮野崎】山口県・岩国基地所國のF18トネット戦闘攻撃機が、日米共同訓練のため普天間基地に飛来・移駐している問題で、地元宮野崎議した。

決議は「普天間基地はへり」事など関係省庁。

静かな町を返せ

静かな町を返せ

普天間基地前で抗議集会

れ、いつ起るかわからない飛行機事故に対する不安で精
【宜野湾】山口県の米海兵隊岩国基地のF A 18ホーネツ

司令官、防衛庁長官、外務大臣、那覇防衛施設局長、県知事、主権者を代表して統一連の宮城正雄議長は「マレーシア

船側のサガワ、機銃陣をち
ど込んだのが、E188本ネット
であり、この中では下の訓
練は與民への挑戦である。移
住による騒音はさらに激しく
なっている。生活と安全を脅
かす訓練には断固反対する」と
強い調子で抗議した。

増して、それに伴っ
て騒音も増大している」と拒
絶した。

1987年（昭和62年）8月10日（月）

県へ抗議決議文

宜野湾市議会
市議会

F A 18 の飛来に対し

宜野湾市議会の石川仁二議長ら代表団は十日午前、県庁に花城知事公室次長を訪ね、先に採択した「F A 18 ホーネット戦闘機飛来に対する抗議決議」を手渡すとともに「県としても、同戦闘機の飛来と訓練の即時中止を申し入れてほしい」と要請した。

このなかで代表団は「市長は昼夜の別なく、普天間基地の戦闘機の爆音に悩まされ、しかもいつ起きるか分からない飛行機事故に対する不安で精神的苦痛を受けている」と述べ、県としても住民の立場に立って米軍に飛来訓練の即時中止を申し入れるよう強く要請。

これに対し花城次長は「最近、米軍演習が多く県も困っており演習中止を申し入れていくところだが、なかなか聞いてもらえない」と述べ、県も度重なる演習の対応に苦慮していることを説明した。

代表団は、そのあと、那覇防衛施設局、米総領事にも同様に申し入れた。

述べ、県としても住民の立場に立って米軍に飛来訓練の即時中止を申し入れるよう強く要請。

これに対し花城次長は「最近、米軍演習が多く県も困っており演習中止を申し入れていくところだが、なかなか聞いてもらえない」と述べ、県も度重なる演習の対応に苦慮していることを説明した。

代表団は、そのあと、那覇防衛施設局、米総領事にも同様に申し入れた。

1987年（昭和62年）8月11日（火）

F A 18 は危険戦闘機

宜野湾市議会が激舌奮闘

宜野湾市議会の石川仁二議長ら代表十八人は十日午後、那覇防衛施設局の竹下昭次長に会い、普天間基地に飛来しているF A 18 ホーネット戦闘機の即時撤去、訓練中止を申し入れた。

石川議長らは「宜野湾市民は毎日、ヘリや輸送機の爆音に悩まされているが、F A 18

のジェット機特有の激しい金属音が加わって生活音として破壊されている」と基地公害の実情を説明。さらに「同機はボムックス・サカサに模擬弾を投じた危険な飛行機でもある。基地中心の穴、陥没行場」になぜこんな危険な戦闘機を飛来させるのか理解できない」と不安を訴え、結局として訓練を止めさせるよう強く求めた。

これに対し竹下次長は「局長に伝えたい」と答えることはなかった。

1988年（昭和63年）4月1日（金）

暫定予算を可決

【宜野湾】宜野湾市議会は、三十一日臨時議を開き、歳入歳出予算案を可決した。歳入は八億八千万円、歳出は八億八千万円、歳入歳出の差はゼロで可決した。臨時議は午後十時から開かれた。

臨時職員の賃金は否決

【宜野湾】宜野湾市議会は、三十一日臨時議を開き、臨時職員の賃金案を否決した。市当局は臨時職員の賃金を本年度より六・九％の二億五千九百九十九万円に引き上げようとしていたが、市議員は、臨時職員の賃金を引き上げると、市民生活に支障を及ぼすとして、否決した。

1988年（昭和63年）4月15日（金）

基地開放の要請決議

自衛官募集委託費も修正可決

【宜野湾】宜野湾市議会は、十四日臨時議を開き、市当局が提出した、昭和六十三年度一般会計予算案を審議し、野党側から二万一千円の自衛官募集委託費を削減する案が可決された。また、同議会は、西銘知事の訪米に際し、①普天間飛行場の早期移転と返還の米陸軍野油施設の早期撤去などからなる「基地開放等に関する要請決議」を賛成多数で採決、知事に手渡す。

宜野湾市

千円を提出。しかし、臨時職員の賃金総額が前年度より突出している。自衛官募集委託費が計上されていない。③駐留軍離脱対策センター補助費の計上に野党側が反対、否決していた。

市当局は臨時職員の時間外分のカット、人員の圧縮、補助費の見送りなどで、千五百五十一万円を減額して臨時議会上程していた。

1988年（昭和63年）4月16日（土）

「基地の早期返還を」

宜野湾市議会 市議会 知事訪米に向け要請

宜野湾市議会の石川仁一議員の代表は、十五日県庁に花城玄一知事公室次長を訪ね、先に決議した米軍基地返還等に関する要請文を手渡した。十七日からの知事訪米に際しての要請。

このなかで、宜野湾市は市の中央部に米海兵隊普天間飛行場を抱え、昼夜爆音に悩まされ、市民の精神的苦痛は計り知れない。飛行場付近の普天間第二小学校は飛行ルート下にあり、騒音による授業中断、学習意欲の低下が懸念され、児童並びに基地周辺市民の生活が脅かされている。また、西海岸開発と海岸道路の開通により、人口急増、諸産

業の導入、公共施設の増設が見込まれ、スケラン基地と普天間飛行場の返還、整理、縮小は緊急の課題であるとして、

1988年（昭和63年）6月28日（火）

企業誘致諮問案

賛成多数で可決

宜野湾市議会

「宜野湾」市議会は、六月二十七日、二回の臨時議会を開き、

時議会で可決された西海岸埋め立て地の企業誘致諮問案を賛成多数で可決した。

先の臨時議会で当局は三企業の誘致を諮問。そのなかのホテルについては認められたものの、残りの二企業についてはコンベンション・シティに整合しない、と論議が紛糾、議会は深夜まで及び、否決されている。今議会は計画の一部が手直しされ上程されていた。

同議会は、「西海岸埋立地内企業誘致等に関する特別委」を設けて無議。土地の売却においては「市民に不利のないよう土地鑑定士の鑑定価格を耳慮し、適性価格での売却に最善の努力を」の付帯決議付きで可決された。

誘致される企業は電気会社の本店規模のショールームと飲料水会社の本社機能をもったレストラン、ショッピングセンター、カルチャーセンター。市当局では財源確保と雇用の創出に大きな期待を寄せている。

また、同議会はCH-53大型ヘリの墜落事故を重視。同型ヘリは機度となく墜落事故を起こしている。このような欠陥機はいづつ住民地域に落ちるか、市民は常に危険にさらされている。七万市民の人命を守るため、事故原因の早期究明と普天間基地の早期返還を要求する」との内容の要請決議を全会一致で採択した。

1989年（平成元年）6月2日（金）

落ちる米軍のヘリ 県民脅かす欠陥機

◇上

配備するヘリ部隊だ。このヘリのなかで、トラブルを多発させているのが、今回事故を起こしたCH46のCH53の二機だ。そのうえ緊急着陸、予復帰後のヘリ墜落事故をみると、一九七三年八月二日、CH46が北部訓練場に墜落して四人が死傷。また同年十一月、同

今年に入ってから米軍の県間基地に配備されているCH46ヘリが墜落した。性質を問う。

道104号越え実弾砲撃演習が激化し県民の間から抗議の声が高まっている中、喜屋武岬沖で普天

間基地に配備されているCH46ヘリが墜落した。性質を問う。先月三十日深夜、喜屋武在沖米軍基地にはCH46が墜落して四人が死傷。また同年十一月、同

普天間に50機配備

トラブル多発のCH46、CH53 民間上空を飛びかう

岬沖で上陸演習参加中の事故だが、欠陥機と指摘されたヘリは、県民は「またか」と不安と怒りを募らせている。復地と嘉手納基地などに配備されている。特に普天間基地は、空飛ぶ海兵隊と呼ばれ約五十機を配備するヘリ部隊だ。このヘリのなかで、トラブルを多発させているのが、今回事故を起こしたCH46のCH53の二機だ。そのうえ緊急着陸、予復帰後のヘリ墜落事故をみると、一九七三年八月二日、CH46が北部訓練場に墜落して四人が死傷。また同年十一月、同



喜屋武岬沖に墜落したCH46ヘリと同型機。欠陥機として知られる

化に伴い、九一年以降、ヘリに飛行機を合体させた「M23オスプレイ」の採用を決定している。それまでの間、現在のヘリが民間上空を飛びかうという点で、県民は非常に危険な帽子をかぶらされている現状だ。

1989年（平成元年）6月3日（土）

落ちる米軍ヘリ 県民脅かす欠陥機

今回墜落したCH46へ
りは八人が救助され十四
人が行方不明のまま、生
存はほぼ絶望的との判断

で一日、捜索活動は打ち
切られた。行方不明者は
なろう。

したの分からない」とCH46、CH53ヘリの欠
陥を指摘する声がある。
本紙のインタビューに
また、海兵隊は二日、
ハワイから普天間基地に
配備されるヘリは分解し
て運び、沖縄で組み立て
て運用していることを明
らかにした。事故機も同
様で、普天間基地での整
備に問題はなかったが、
疑問の残る点もあつた。
「14 Marines lost
in crash」と見出しを
落事故について、在沖の
海兵隊員らは「とても残
念な事故だ」と遺憾に意
を表す一方、県民同様に
を頻繁に飛んでいるだけ
に「県民生活が脅かされ
ている」との観点から、
普天間飛行場の移設を要
求する声も高まっている。
西銘知事は過去の二度
にわたる訪米で、海兵隊
のヘリ部隊が配備される
普天間飛行場の移設を要
請した。今後、返還を含
めた声が高まることは必
ずである。

沖縄で組み立てる

兵士の中にも「欠陥機」の声

水没した機体の中だとみ
られる。
事故原因は何か？ 機
体海中から引き揚げられ
ることが困難な現時点では
分からない。生存者から
事故当時の状況を聴取し
た。なぜ、事故が発生
したのか分からない」と
CH46、CH53ヘリの欠
陥を指摘する声がある。
本紙のインタビューに
また、海兵隊は二日、
ハワイから普天間基地に
配備されるヘリは分解し
て運び、沖縄で組み立て
て運用していることを明
らかにした。事故機も同
様で、普天間基地での整
備に問題はなかったが、
疑問の残る点もあつた。
「14 Marines lost
in crash」と見出しを
落事故について、在沖の
海兵隊員らは「とても残
念な事故だ」と遺憾に意
を表す一方、県民同様に
を頻繁に飛んでいるだけ
に「県民生活が脅かされ
ている」との観点から、
普天間飛行場の移設を要
求する声も高まっている。
西銘知事は過去の二度
にわたる訪米で、海兵隊
のヘリ部隊が配備される
普天間飛行場の移設を要
請した。今後、返還を含
めた声が高まることは必
ずである。



事故現場では日米双方が捜索活動が続け
たが、3日で打ち切られた

1989年（平成元年）6月4日（日）

落ちる米軍の
県民脅かす欠陥機

県民脅かす欠陥機

恒常的な爆音と生命の危機。普天間基地にフエンス一枚で隣り合う市立普天間第二小学校が十年来抱える問題だ。昭和

五十七年八月には学校から離れた場所

同校で

撤井替園岡校PTA会長は「欠陥ヘリを学校、住民地区で飛ばすのは異常だ。子供たちはおびえながら学校に通っている」と今回の事案に怒りを表す。

付近住宅も今回の事案、事故に対する怒りと不安が高まるばかり。『万が一』という言葉がこんな頻繁に落ちるようでは、この言葉はここには当てはまらない

同基地は市全域の四分の一、住宅地に落ちても不
の一強を占め、市のだ真思議ではない」というの

飛行場も欠陥だらけ

普天間基地 危険性浮き彫り

所へりが際迄、学校関係者を驚かすために、係を驚かした。また、北谷町へあるハンビ飛行場の返還で拡充強化された。それに伴って、これまで比較的に静かだった校舎に、一転して騒音と危機にすっぽり包みこまれていく。

飛行場が、重要課題として浮上する。授業が中断となり、子供たちの情緒が心配されている。PTAを中心として、市民の頭上をわたるもので飛び回る。相次ぐ事故は改めて昔、航空基地の危険性を浮き彫りにした。

「こんな一瞬刻に落ちる」といふことは、イロツの胸のせいでない。

ヘリが欠陥機からだと、次々昔の基地に、爆音公害を放散する。官野海軍の一致した意見だ。

トの腕のせいではない。民の会世話人。と云
へりが欠陥機だからだ」 二日開かれたゲート前 住吉
と決めつけるのは島田善 の抗議集会で島田氏は
次善年間基地撤去・爆音 「露手納で成功した基地
公書を追放する宮野海市 包囲運動を善年間でも」
だ。

と呼び掛けた。呼応して
住民運動が大きくなつて
なりとなつて動き出す気配
だ。



「演習の即時中止、基地の撤去」などのシュプレヒコールを繰り返した＝2日、普天間基地ゲート前

1989年（平成元年）6月9日（金）

ヘリ事故の原

因究明など要請

【東京】米軍ヘリコプター墜落事故問題で上京した宜野湾市議会基地対策特別委員会（砂川寛重委員長）は八日、防衛施設庁に抗議するとともに、事故原因究明と市への連絡の向上訓練の徹底の請え、飛行場の早期返還を強く要請した。

これに対し、防衛省北米局の森・地位協定課長は「どこで訓練するかは米軍が決めること。飛行場の早期返還も困難と米側から聞いている」と対応。だが、同飛行場について「宜野湾市の基地がどのようなものであるのかぜひ早期に調査したい」と述べた。

防衛施設庁では弘法総務部長が「事故再発防止と市上での訓練中止について米軍に伝える」と答弁した。

1989年（平成元年）6月25日（日）

宜野湾市議会

懲罰騒ぎで審議中断

与野党議員がヤジの応酬

【宜野湾】宜野湾市六月定例議会（伊佐吉秀議長）は十九日、一般質問に立ち、与野党議員に野党議員がヤジのため、議会の紛糾が、案が審議未了という異常事態になった。

知念忠二議員（共産党、中国の民主花彈庄に関連して賛同中、野党議員が「共産党のこの国も同じだ」などのヤジを飛ばした。これに怒る形で知念議員が「バカヤロー」と発言したため、すべての審議が空転した。

わが党を中傷した

共産党が野党に抗議

共産党宜野湾市委員会と同党宜野湾市議団は、宜野湾市六月定例議会での同党議員に対する野党の「謝罪要求決議」と「懲罰決議」に対し二十四日、県議会控室で記者会見し、抗議声明を発表した。声明は「知念忠二議員が中国の民主化要求武力弾圧事件を糾弾の質問中、野党議員から、共産党は人殺しだ、宮本顕治も同じだ」といふ中傷した。これに対し知念議員は不穏当な発言をしたが、同部分の削除を議長に申し出て、反省を表明したが野党はこれを拒否。懲罰決議などを可決した。これは議会制民主主義の重大な破壊である」として

1990年（平成2年）3月30日（金）

死亡事故防止で決議

宜野湾市議会

【宜野湾】開会中の宜野湾市議会（伊佐吉秀議長）は最終日の三十日午前二時、交

通死亡事故防止の推進に関する要請決議」を全会一致で採択した。同市内では三月に入ってから既に三件の死亡事故が発生、四人が重い命を失った。同決議は県警が進める「やどろく走ろ」国道58号作戦」と呼ばれて多発する事故に抑止効果を発揮されたもの。

決議書は「死亡事故は若年者の深夜の暴走行為など交通道徳の欠如に起因するものが多い。関係当局の実効ある措置をはじめ、県民総参加による交通安全意識の普及徹底を図る必要がある」として、暴走行為の徹底した取り締まりの交通三悪や事故を誘発する違法駐車を取り締まりの主要幹線道路に街路灯を増設する一

あて先は県知事、県公安委員会、県警本部、宜野湾署、沖縄総合事務局、南部国道事務所

1990年（平成2年）4月6日（金）

死亡事故防止決議を手渡す

宜野湾市議会

宜野湾市議会の伊佐吉秀議長は、

議長ら代表は六日前、沖縄総合事務局に造詣局長を訪ね、「交通死亡事故防止の推進に関する要請決議」を手渡し、要請した。

同市の国道58号、330号での事故ひんぱんに先の議会で決議したもので、深夜の二輪車の暴走行為の取り締まりの違法駐車への

1990年（平成2年）4月1日（日）

予算を可決

宜野湾市議会

【宜野湾】開会中の宜野湾市議会（伊佐吉秀議長）は最終日の三十日、当議から提出された総額六十億円の一般会計予算を一部修正して可決した。

修正された部分、自衛官募集業務委託、駐留軍離職者センターへの補助金、自衛官募集業務委託は当初、本年度予算に計上されてなく、修正可決は多数野党に押し切られた形。

本年度全額が削減された駐留軍離職者センター補助金は計八十二億円の半額に修正可決された。また、本年度で任期満了になる大城仁孝助役の補任案件は賛成多数で同意された。



東野湾市の都市計画上ネックになっている普天間飛行場。跡利用を
全市民で考え、返還の早期実現を求める



事業計画などを決めた「市民フォーラム」実行委員の設立総会―市野瀬市役所



桃原・宜野湾市長

【宮野町】市民校々々のみで替天間行場の返還運動を促進させ、跡利用計画を考へていこう、と来月二十三、二十四の両日、宮野町市民会館、中央公民館で替天間行場跡跡利用市民フォーラム」が開催される。

町行場は今年六月の日米合同委員会合意で東側沿いの土地が返還されたのみで替天間行場の返還運動を促進させ、跡利用計画を考へていこう、と来月二十三、二十四の両日、宮野町市民会館、中央公民館で替天間行場跡跡利用市民フォーラム」が開催される。

[illegible][illegible]

普天間飛行場

市民の英知で
跡利用計画

来月23、24日にフォーラム

告(して仲代達新大校機
核陳市長が発表。
このあと、比嘉宮正廣知
事公妻兼地渉外課長、花城
清善・市軍用地等地主会
長、新田省・邸・市商工会
長、佐和田幸子・市婦連会
長がそれぞれの立場から発
表する。舞台部門としては
少年少女合唱団による歌の

コーラスを披露。宮野海斗の豊かな歌声が会場を暖めた。アヒールする。

実行委員は「平和、やさしさ、自信といった神髄の心づいた。フौरラムを通して市民一人ひとりが街づくりに参加する意欲をもってもらい、反戦・平和と飛行機への認識を深め、平和の返還を促す」と意気込みを語った。

蒼天間飛行場は蒼天間町空襲被害が甚多な故で、面積は四百三十八ヘ。同市の約二五%を占める。地主数は三千十一人。CH-53など八機七十一機の航空機が配備されている。市の中央部に位置して都市計画の障害となつており、同市は一九七六年から国、県、米、米に返還要請を続けてい

1990年（平成2年）9月11日（火）

市町村議会議員選挙得票数

宜野湾市

（定数31、立候補39）

（選挙最終）

当	大城 政利	39	公明・現	1 9 4 6
当	恩河 徹夫	49	公明・現	1 5 7 4
当	安次富 修	34	無	1 2 7 1
当	砂川 晃章	52	無・現	1 2 3 2
当	比嘉 定仁	50	無・新	1 1 4 7
当	上江洲 安藏	54	無・現	1 1 3 6
当	大城 真淳	50	無・現	1 0 8 4
当	宮城 邦雄	59	無・現	1 0 8 0
当	宮里 真古	53	無・現	1 0 6 9
当	伊波 廣助	46	無・新	1 0 6 7
当	前川 朝平	45	無・現	1 0 6 2
当	具屋 正行	54	無・現	1 0 4 1
当	佐喜真 博	51	無・現	1 0 3 9
当	伊佐 雅仁	54	無・現	1 0 2 7
当	知花 真正	51	無・現	1 0 2 0
当	知念 清栄	43	無・現	1 0 1 0
当	仲村 春信	60	無・現	1 0 0 5
当	石川ヨシ子	57	無・新	9 8 0
当	平安座唯雄	45	無・現	9 7 3
当	知念 忠二	56	共産・現	9 5 7
当	玉那覇 繁	52	無・新	9 4 4
当	伊波 善雄	57	無・現	9 4 0
当	伊佐 敏男	45	無・新	9 2 8
当	金城 清武	50	無・現	9 2 6
当	宮城 善正	59	無・現	9 0 1
当	名城 俊治	59	無・現	8 8 5
当	我如古盛古	58	無・現	8 8 2
当	古波津由信	64	無・現	8 8 2
当	佐喜真祐輝	49	無・現	8 6 4
当	天久 嘉栄	56	無・現	8 6 3
当	宇江城昌健	51	無・新	7 5 0
当	屋良 朝勇	49	共産・現	7 2 6
当	屋良 朝秀	53	無・新	7 1 7

知念 健義	44	共産・新	6 7 8
酒井 正信	65	無・現	6 3 1
金武 正信	50	無・新	6 1 9
砂川 清徳	50	無・新	5 5 6
伊波 忠正	49	無・新	3 9 4
松田 昌三	48	社会・新	2 4 1

1990年（平成2年）9月11日（火）

当選者の顔ぶれ

当選者氏名、年齢、所属政党、職業、出身校、現住所、当選回数、順

宜野湾市	
 大城 政利 (38) 公明・比嘉定仁 (50) 無・新・富重真吉 (53) 無・現・伊佐 雅仁 (54) 無・現・平定雄雄雄 (45) 無・現・倉城 清武 (50) 無・現・佐賀 拓郎 (49) 無・現 中道 野高 (42) 四ノ二五 無・現・新・富重真吉 (53) 無・現・伊佐 雅仁 (54) 無・現・平定雄雄雄 (45) 無・現・倉城 清武 (50) 無・現・佐賀 拓郎 (49) 無・現 中道 野高 (42) 四ノ二五 無・現・新・富重真吉 (53) 無・現・伊佐 雅仁 (54) 無・現・平定雄雄雄 (45) 無・現・倉城 清武 (50) 無・現・佐賀 拓郎 (49) 無・現	 伊波 慶助 (46) 無・新・知花 真正 (51) 無・現・知念 恵一 (56) 共産・高城 善正 (59) 無・現・天久 嘉業 (56) 無・現 伊波 慶助 (46) 無・新・知花 真正 (51) 無・現・知念 恵一 (56) 共産・高城 善正 (59) 無・現・天久 嘉業 (56) 無・現 伊波 慶助 (46) 無・新・知花 真正 (51) 無・現・知念 恵一 (56) 共産・高城 善正 (59) 無・現・天久 嘉業 (56) 無・現
 安次富 修 (34) 無・現・大城 真津 (50) 無・現・佐賀 拓郎 (49) 無・現 安次富 修 (34) 無・現・大城 真津 (50) 無・現・佐賀 拓郎 (49) 無・現 安次富 修 (34) 無・現・大城 真津 (50) 無・現・佐賀 拓郎 (49) 無・現	 前 幹平 (45) 無・現・知念 清英 (43) 無・現・玉島 繁 (52) 無・新・名義 健治 (59) 無・現・半江 健雄 (51) 無・新 前 幹平 (45) 無・現・知念 清英 (43) 無・現・玉島 繁 (52) 無・新・名義 健治 (59) 無・現・半江 健雄 (51) 無・新 前 幹平 (45) 無・現・知念 清英 (43) 無・現・玉島 繁 (52) 無・新・名義 健治 (59) 無・現・半江 健雄 (51) 無・新
 山三ノ八 (47) 無・現・伊波 健雄 (57) 無・現・我知古盛吉 (58) 無・現 山三ノ八 (47) 無・現・伊波 健雄 (57) 無・現・我知古盛吉 (58) 無・現 山三ノ八 (47) 無・現・伊波 健雄 (57) 無・現・我知古盛吉 (58) 無・現	 山三ノ八 (47) 無・現・伊波 健雄 (57) 無・現・我知古盛吉 (58) 無・現 山三ノ八 (47) 無・現・伊波 健雄 (57) 無・現・我知古盛吉 (58) 無・現 山三ノ八 (47) 無・現・伊波 健雄 (57) 無・現・我知古盛吉 (58) 無・現

1990年（平成2年）9月29日（土）

暴力団壊滅と 治安の強化を

宜野湾市議会が要請決議

【宜野湾】暴力団抗争事件を重視した宜野湾市議会（仲村春信議長）は二十八日開会した九月定例会で「暴力団壊滅と治安維持の強化に関する要請決議」を全会一致で採択した。

三代目旭琉会会長のゲスと、県警と関係機関がトハウスがある同市大山区（伊佐光雄区長）の緊急会に全力を挙げて要求して、決議している。

決議は、凶悪な暴力団抗争事件は県民に対する挑戦であるとし、宜野湾市内で「暴力団壊滅と治安維持の強化に関する要請決議」を全会一致で採択した。

1990年（平成2年）10月10日（水）

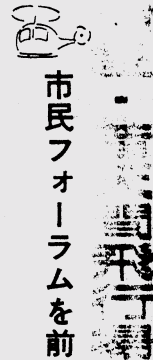
宜野湾市内のパイプライン

12月末返還の感触

道路買収費ねん出が課題

【宜野湾】開会中の宜野湾市議会の九月定例会で九日、比嘉盛光同市企画部長は米陸軍野油施設のパイプラインの返還について「那覇が合意された。これまでは道路として利用されているところから、同市では道路として買い上げる方針だが、市道整備には幅員の拡張が必要で、その用地買い上げには約六十億円かかるため、土地買収が今後の課題となっている。比嘉部長にまだ、防衛施設局は返還の時期は明示していない。だが、毎年七月ごろに支払われている軍用地料がパイプラインの地主だけが九〇年度分た。

1990年（平成2年）10月16日（火）



市民フォーラムを前に

▷4

「これまで何度も関係当局に要請してきた。市政の限界、行政の限界を感じた。大きな悲しみ。だからこそ、市民、県民の返還を求める世論を高めた。宜野湾市の桃原正賢市長はこれまでの普天間飛行場の返還要請行動を振り返って感慨深そうに、こう語った。

今、桃原市長が事ある度に強調しているのは、昨年から冬にかけての東西冷戦終結など新データの国際情勢だ。『デタント以前は、国も宜野湾市の実情には同情する上だった。米ソ関係が対立から協調時代に入

てい。日、飛行場が必要という大義名分はなくなった。国はデタント飛行場の返還要求を明確に示したが、一九七三年

市議会の「宜野湾市と基地」に多く、普天間飛行場の返還要求を明確に示したが、一九七三年

な思惑が絡み、決断できなかった。四つの観点から同飛行場の返還を求め、自立的な街づくりを進めると強調する。『民生、市政の発展からみれば、米軍高宮でさえ、この飛行場は地理的にもおかし」と言っている。市の中核部を取られては向の発展性もない。だから、

行政やつと腰上げる

宜野湾市議会 与野党、返還要求で一致

（昭和四十〇）十月の市議会の決議した。その後八〇年十月、OV10偵察機が普天間飛行場に墜落した事故で、抗議の市民大会が開かれ同飛行場の即時撤去を決議したものの、その後十年余は市、市議会でも多発する事故に際しても「飛行場撤去、解放」などの言葉を盛り込めなかった。保守市政の中で政治的

八八年の紛争の際、具体的な理由を示し飛行場の移設について「早期実現」を米国に直訴している。

市議会でもかつては決議文の中に「撤去」「返還」という言葉を盛り込むかどうかで紛糾したこともあったが、今では与野党は「返還」で統一されている。

桃原市長は、機能的な

けて立ち上がった。桃原市長は「市議会の決議の意、機能的な市の発展に位置することによる開発、経済上のネックなどを理由に、国、県、また米国、米軍に何回も返還要請行動を展開してきた。

（昭和四十〇）十月の市議会の決議した。その後八〇年十月、OV10偵察機が普天間飛行場に墜落した事故で、抗議の市民大会が開かれ同飛行場の即時撤去を決議したものの、その後十年余は市、市議会でも多発する事故に際しても「飛行場撤去、解放」などの言葉を盛り込めなかった。保守市政の中で政治的

八八年の紛争の際、具体的な理由を示し飛行場の移設について「早期実現」を米国に直訴している。

市議会でもかつては決議文の中に「撤去」「返還」という言葉を盛り込むかどうかで紛糾したこともあったが、今では与野党は「返還」で統一されている。

桃原市長は、機能的な

返還行動

（合衆・西銘知事）は八



軍転協の本年度総会で、普天間飛行場の全面返還を求めることを決め、政府に要請した。5月25日

月に四年ぶりに二度目の返還要請施設のリストを断り利用計画とともに関係省庁に提出、早期実現を断った。このリストでは初めて普天間飛行場の全面返還を求めている。

桃原市長は、機能的な

（フ・ラム取材班）

◆普天間飛行場断り利用市民フォーラム 二十三日二十四日午前九時、午後八時・戦災資料館（宜野湾市立中央公民館）二十三日午後二時、二十五日午後二時（宜野湾市民会館）。市民たれでも参加できます。入場無料。

1990年（平成2年）10月18日（木）

普天間飛行場 市民フォーラムを前に

▽ 6

「だが、という表現があるが、普天間飛行場のヘリの場合、いつ学校に騒音しても不思議ではない」と藤井登良徳元普天間第二小学校PTA会長が断言するに、同基地所属のヘリの事故は相次いでいる。

同校は普天間飛行場と隣接、騒音の被害をまともに受けている。また墜落の恐怖にもさらされている。現に八二年には訓練中のヘリが学校からわずか一百メートル離れた所に墜落、学校関係者を驚かせた。

普天間第二小移動問題も同事故をきっかけに大きくクローズアップされた。

普天間第二小移動問題

分譲、新設された。基地には隣接していたものの、当時は週に四五回、輸送機が離発着するくらいで、騒音もそれほどひどくはなかった。

北町のハンビード飛行場の返還に伴い、普天間

墜落の恐怖へさらされる

まともに騒音被害

は、いち早く移動要求が沸き上がり、市をはじめ関係機関への要請活動が始まった。

市でも八〇、八一年に移動地として県道30号沿いのキャンプ・瑞慶覧内の約四万平方メートルを返還要求を出した。

定、返還要求を出した。同校地は日米合同案でもう一度返還の合意ができており、八四年七月にうに決着が図れると

の学校建物を普天間飛行場として合衆国政府に提供する」との一項が最初の関門となった。

機関に幾度となく補助費を提出した。

が進められている中、普天間基地の返還もにわかには現実味を帯びてきた。

市民フォーラム 二千三百二十四日午前九時、午後八時・戦災資料展、宜野湾市中央公民館、十四日午後二時・五時、市民フォーラム（宜野湾市民会館）。市民だれでも参加できます。入場無料。

は、市当局、議会、教育委員会、学校、PTAからなる「学校移転促進委員会」が組織され、スケジュールまで作成された。

市側では「学校が移転させるを得ない状況をつくり出した原因は、基地を米側に提供している点にある。費用は国が負担すべきもの」として関係



フェンス一枚を隔てただけで普天間基地がある。子供たちは騒音に悩まされ、墜落の危険にさらされている

普天間飛行場市民フォーラム



普天間飛行場の跡利用について、本格的な「対話集会」となった
市民フォーラム＝宜野湾市民会館

700人が参加、活発に意見交換

早期返還の実現へ

【宮野浩平和、やさしき、自治を合意した】皇国飛行場跡地利用委員会・フーラム（主催：宮野浩平、沖田タケイ）社な賛同委員会の対案「会・フーラム」部が二十四日午後、宮野市民会館開いた。機内飛行場の遺構、跡地利用について、審議部と意見が発せられ、約七百名の参加者が一体となった発熱な意見交換を行った。その結果、同問題の早期追加の跡地に対する特別振興の要請、三期集まり市民知の結ぶ跡地利用計画の早期形を、「宣言」に示す、致で採択、全市市役所、促進事業、跡地利用計画策定に積極的にかかわっていく、出発点の認識をもつ物になった。

(関) 24・25・29 面に

国の責任で地権者保護を

[illegible]

また、宜野湾市の桃原正賢市長は「普天間飛行場の法に関する特別措置を講じ、次に市軍用土地等地主会の花城清善会長が「返還方

[illegible]

1990年（平成2年）10月25日（木）

戦後、宜野湾市は苦難な歩みを経て復興しました。しかし、わたしたちの足元には、米軍に接収された土地が今なお広大な面積を占めて存在し、市の発展に大きな妨げとなっています。市の将来を担う子どもたちのためにも、米軍基地の早期返還を求め、夢のある街づくりを進める必要があります。

戦後四十五年間、古里を基地に奪われた多くの市民がいまいます。わたしたちは、これら地主の方々の苦しみを忘れてはなりません。基地の返還が実現した際には、土地が直ちに有効に利用できるような計画を立てるとともに、国、県に対して法制上の整備を強く求めます。

宜野湾市の面積の二五%を占めている普天間飛行場の返還後の跡地利用計画は、全市民の英知を結集して考えていくべきです。これをすすめるためにも、市民参加によって跡地利用計画を協議する場の設置が必要です。

以下、つぎの四項目を重要課題として採択します。

- 一、普天間飛行場の早期返還
- 一、返還跡地に対する特別措置の要請と早期実現
- 一、市民英知の結集
- 一、跡地利用計画の早期策定

平成二年十月二十四日
普天間飛行場跡利用市民フォーラム実行委員会



宣言文

わたしたち宜野湾市に住む七万五千市民は、人類の恒久平和を強く願っています。県民に多大な犠牲を強いて終結した太平洋戦争の教訓として、唯一地上戦を経験したわたしたちは身をもって平和の尊さ、戦争の愚かさを学びました。

1991年（平成3年）1月17日（木）

宣野湾市と地主物別れ

パイプライン買収問題

【宣野湾】昨年十二月末に返還された汽車パイプライン（米陸軍石油施設）の跡地買い上げ問題について、宣野湾市当局と地主会十五人との話し合いが十六日前、同市役所で行われた。席上、桃原工務市長は跡地の一括買い上げは無理だとし、五分割買い上げ期間の短縮の分割買い上げが先であるまで買い上げされていない地主に対し、地料相当額を支払いつつ、この案を押し出す。

これに対し、返還跡地利用委員会の高城勇会長は「地主は土地開発公社が先行取得した場合、市の試置に納得せず、あまでも一括買い上げを主張。結局、一括行線をなにより、物別れとなった。」

1991年（平成3年）1月31日（木）

一括買い上げを要求

宜野湾市議会が採択

パイプライン 返還跡地問題

【武野亭】武野亭の議會、議會を全会一致で終結した。身をもて體驗しつておりの一切の戦争に強く反對する。昨日と月未に返還されたパイプラインの一括買い上げに関する意見書は、米軍の強制接收の經過から補助還配には因は因庫庫補助する買主は「市道孝臣の果てな絶えず不安定な」で一括買い上げることが

は返還後、地主への十分な
補償未補償、国庫補助による
断地の一括買上げなどを財
政上の措置を講じていない
。その上、買収費の補助も
数年程度で分割したことは
遺憾である」と強調。自治
体や地方公営企業を無視した
返還政策は認めできないと
して、国庫補助の一括買上
げの措置を国に求めるとい
ている。市議代会長十二人
が近く共立、國に意見書
を提出する予定也。

衆議院の定数増は、ほか
の選挙区との議員一人当た
りの人口の格差を正したの
ため、一人増の議員三人を強
く要請している。

1991年（平成3年）2月3日（日）



ハイフライン跡地買い上げ問題

昨年十一月に返還された宜野湾市のハイフライン（在米陸軍野中施設）の跡地利用、市道整備が買い上げ問題をめぐって市と地主会の交渉が物別れとなり、暗礁に乗り上げています。買収費の国庫補助が年度分割計上のため、市側は一括買い上げの持ち出し分が財政負担として分割買い上げ期間の短期の地料相当額の支払いを提示しているが、一買して一括

買い上げを求める地主側は納得しない。双方が案出した買い上げ試算の食い違いがさらに混迷を深めさせ、市道整備事業は遅れるどころか、事業そのものが着手できない最悪事態さえ招きかねない状況だ。

三十一日に開会した市

と、このうち十一月議会で補正予算された買収費約五億円の納めなど、この臨時議会に市道整備案件が提案される予定になつていたからだが、買い上げ問題で地主の合意が得られず、提案できなかった。

合併に立つた比嘉盛光と訴えた。

試算に食い違い

市と地主会の交渉難航

宜野湾

議会臨時議会、「パイプライン返還跡地買い上げ」等に関する意見書が全会一致で採択された。跡地買収費の補助が分割措置になったことは地元自治体に経済的、財政的に大きな悪影響を与えるとして国庫補助による一括買い上げを国に対し強く求めている。

市当局の対応について野党議員が厳しく追及していることを説明。こ

企業側は「国の予算枠は限られている。市が一括買い上げすると、市の財政への負担が大き。税の公平分配の面からみても無理だ」と強調。地主会に対し分割買い上げの短期の地料相当額の支払いを提示した結果、地主会から一括買い上げの困難な理由、買い上げ時期の確約を求められていることを説明。こ

交渉を難航させているのは市と地主会がはき出した一括買い上げ試算の食い違いにある。市の試算では利息の持ち出し額が五億九千八百万円もあり、これが一般財政に負担をきたす、という。一方、地主会独自の試算では一億二千万円の持ち出し額で負担はなく、一括買い上げは可能だと主張。平行線のまま。

会長は市の対応に不信感を覚える。「生活道路になっている以上、地主は市道整備するしな、選択はできない。私たちが試算では市民に迷惑がかかる負担額ではない、買い上げ時期についても明確にしろわらないのか。一括買い上げは地として最低限の要求だ」と、一歩も譲らない

が、こうした措置は本来、国の責任ですべきである、との声が関係者から出ている。国と地主の板ばさみとなつて苦悩の色を濃くする宜野湾市。国の那覇防衛施設局は「地主の要望は分かるが、予算は決まられており、一括買い上げは無理だ」と繰り返すだけ。心配された空古期間を生じさせないためにもタイムリミットは迫っており、市、地主とも正念場を迎える。国の特別措置のないままの車用地返還問題がいかに難しいかが、一気に浮き上がった。

（宜野湾支局・銘利達夫 記者）

地主で相争する返還跡地利用委員会の高城義男



国の特別措置がなく、市と地主の物別れで市道整備が難航しているハイフライン

1991年（平成3年）2月19日（火）

一括買い上げを要請

宜野湾
市議会

パイプライン返還跡地

【東京】昨年末返還された米軍パイプラインの跡地利用問題で、宜野湾市議会に①返還跡地の国補助による一括買い上げの地主の損失救済等の特別法制定を要請する。市議会では昨年十一月、

以外検討していない」と断定的な見解を示した。要請団は仲村議長、前川朝平総務常任委員長ら超党派議員十二人。要請後、記者会見した仲村議長らは、いい返事を期待していたが、施設庁の姿勢に厳しさを感じた」と感触を述べ、帰って地主、市当局に伝え、対応策を講ぜたい」と述べた。

本年度分として約五億円を準備。しかし、地主側はあくまで一括買い上げを要求しており、分割案を提示した市当局との間で交渉も難航し、市道設定も困難が得られずに事業が停滞している状況

が三・九％。跡地については市の買い上げによる市道整備が決定し、買収費は全額施設庁の道路改修等事業費で充てることになっている。国は分割補助の枠内で



▲施設設備調査官（手前）にパイプライン跡地の一括買い上げ補助を要請する仲村議長ら＝東京・防衛施設庁

1991年（平成3年）7月17日（水）



桃原正賢市長

【宜野湾】桃原正賢宜野湾市長は十六日、訪米する大田知事に対し市の発展の障害となっている普天間飛行場の実情を訴え、早期返還を求める資料を託した。

基地返還の資料託す

桃原市長（宜野湾）が訪米の知事に

【宜野湾】桃原正賢市長は十六日、訪米する大田知事に同行する機を表明していたが、三月議会で承認を得ることができず、断念した。

知事に託した要請資料について桃原市長は経済振興、教育面、国民的福祉、平和的見地の四つの観点から普天間飛行場の早期返還を要請している。特に、騒音公害、事故の危険にさらされている普天間第二小学校の実態を訴えている。要請資料は英文で二十頁。桃原市長は「大田知事には米

国政府の要人だけでなく米国マスコミなどに広く沖縄の基地の実態を理解してもらい、世論を喚起してほしい」と話している。

1991年（平成3年）9月12日（木）

宜野湾市議会

3日連続の空転

野党提案に困難を示す市当局

【宜野湾】国民健康保険側と調整がつかず、延会と補正予算約二億円の、調整になった。これで三日間、補正予算の交付金交付金めぐる空転続いた。入らないまま空転してが続けている野湾市議会。調整を深めており与野間は（仲村善伯議長は十二日も市議の責任を追及する野党側化を求める調整をした。

打開策を求めて市当局と野党の協議会で、野党側は交付金の予算案を取り下げ、調整する場合は市議の責任を含めた責任を明確化することを要求した。この二案とも市当局は受け入れるとは困難だとしており、事態はさらに深刻化を求めている。

1991年（平成3年）9月10日（火）

宜野湾市議会

会が空転

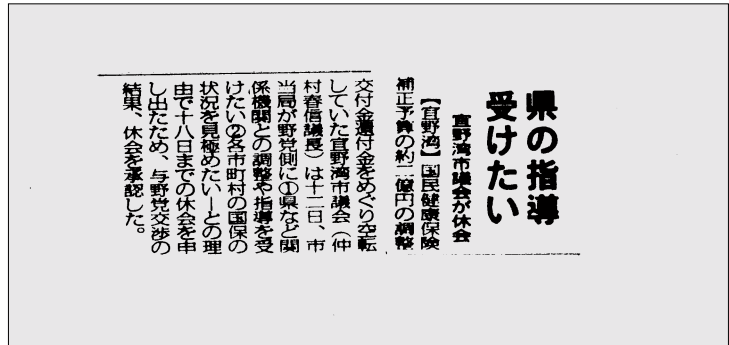
野党、市長責任追及

【宜野湾】開会中の宜野湾市議会（仲村善伯議長）は九日、一九九一年度市国民健康保険特別会計補正予算の調整交付金交付金（同）再開されておらず、流会の一一般

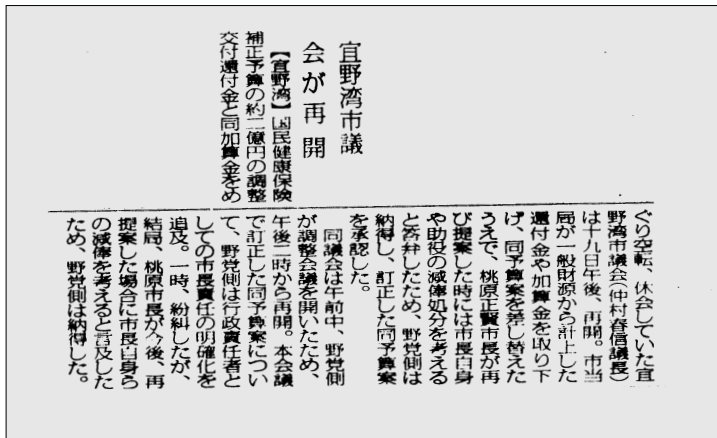
加納金をめぐる野党側が桃原正賢市長の責任を追及して空転、同日深夜まで与野党折衝が行われたが、調整がつかず延会になった。

同議会は十日前十時から再開する予定だったが、市長責任を求める野党側は入場せず、議場あつせんとなっていたが、正午現在、付を請求された。野党側は、この交付金について、一般財源から計上されている。これは三月の会計検査で国への徴収申告を事実上りは棄てて行っていたことが発覚、過去五年の交付を請求された。野党側は、指導改善を徹底する。桃原市長は、責任を感じており、指導改善を徹底する。桃原市長は、責任を感じており、指導改善を徹底する。

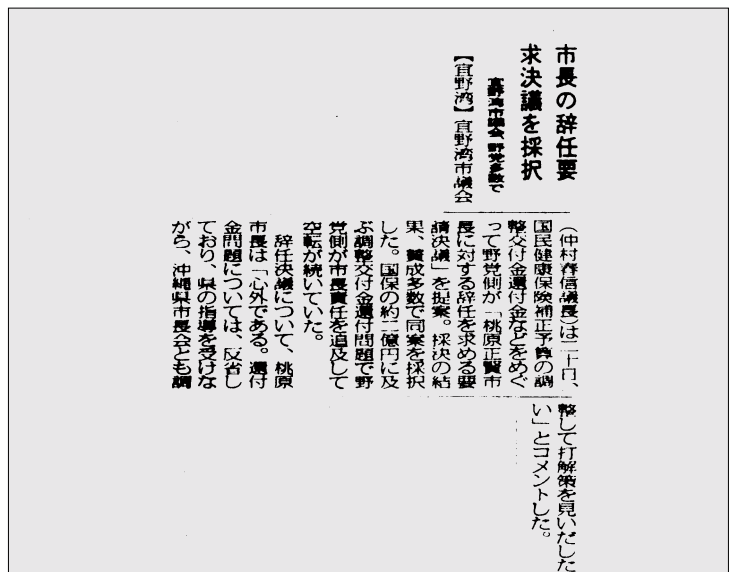
1991年（平成3年）9月13日（金）



1991年（平成3年）9月20日（金）



1991年（平成3年）9月21日（土）



1991年（平成3年）11月12日（火）

市長ら3役減俸処分

宜野湾市 国保不正受給で

【宜野湾】宜野湾市議会（仲村春信議長）は十一日、臨時議会を開き、九月議会で紛糾した一九九一年度国民健康保険特別会計補正予算の調整交付金通付金と同加算金などについて審議した。その結果、国保特別会計補正予算から通付金加算金五千四百四十四万円、一般会計補正予算から調整交付金五千四百四十四万円、一般会計の計二億八千四百四十二万円を軒上した一般会計、国保特別会計予算案を全会一致で可決した。また、桃原正賢市長はその責任を認め、市長、助役、収入役の減俸処分（一カ月分の一〇％）の条例を提出、賛成多数で可決された。